

武蔵野市営プール更新に関する 基本計画

令和8年2月

武蔵野市教育委員会

目次

第1章 基本計画策定の位置づけ

1 計画策定の背景と目的	1
2 基本計画の位置づけ	1
3 計画策定のプロセス	2

第2章 現状と課題

1 市営プールの概要	4
2 現状の課題	8

第3章 利用者ニーズと関係者意見

1 利用者ニーズ	12
2 関係者への意見聴取	16

第4章 市営プールの整備方針

1 計画のコンセプト	20
2 施設整備の方針	21

第5章 市営プールの施設整備計画

1 配置計画	24
2 施設計画	25

第6章 整備の事業手法とスケジュール

1 整備の事業手法の検討	30
2 事業スケジュール	34
3 想定事業費	34

第7章 意見聴取(パブリックコメント)

1 意見聴取(パブリックコメント)実施の概要	35
2 主な意見	35
3 意見内容と市の対応方針	39

資料編

1 関連法規の整理	73
2 施設規模・ボリューム検討	74
3 関連基準の整理	78
4 近年の先行事例調査	79

第1章 基本計画策定の位置づけ

1 計画策定の背景と目的

本市の市営プールは、昭和57年竣工の管理棟、平成元年竣工の温水プール、さらに戦前から使用されてきた屋外プールで構成され、市民のスポーツ・健康増進やレクリエーション活動の拠点として長年親しまれてきました。しかし、施設の経年劣化による老朽化が激しいことに加え、バリアフリーやユニバーサルデザインの未整備、動線や衛生環境の不備など、施設の補修や修繕では現代の社会的ニーズに十分に答えられなくなりつつあります。

また、市民のスポーツ活動の多様化や健康づくり需要の高まり、性別・年齢・障害の有無に関わらず誰もが利用しやすい環境整備への要請、さらには気候変動や災害への備えなど、公共施設に求められる役割は建設当時から大きく変化しています。

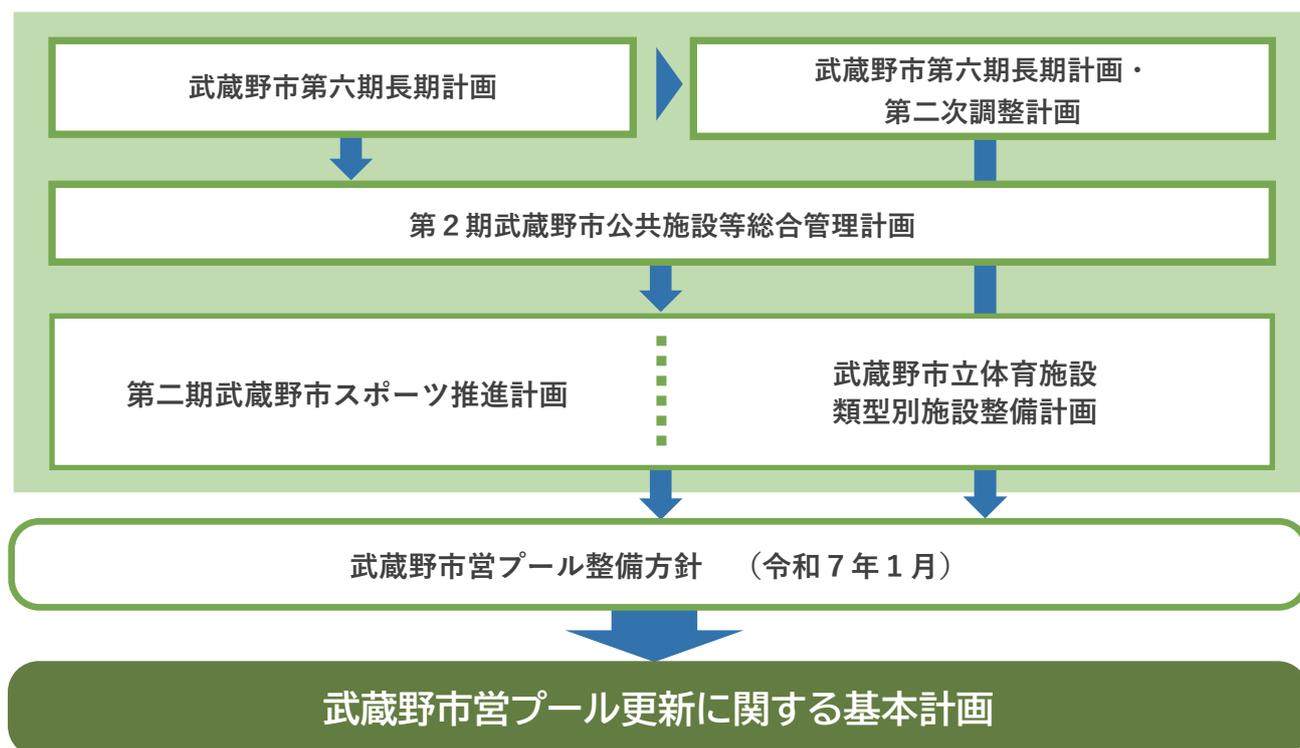
こうした状況を踏まえ、令和7年1月に『武蔵野市営プール整備方針』を策定し、施設更新の基本的な方向性を示しました。本基本計画は、この整備方針を具体化するものとして、現状の課題や市民ニーズを整理し、整備のコンセプト・基本方針を定めるとともに、施設計画や事業手法、整備スケジュール等の検討を行い、今後の基本設計・実施設計の策定に向けた基盤を築くことを目的としています。

2 基本計画の位置づけ

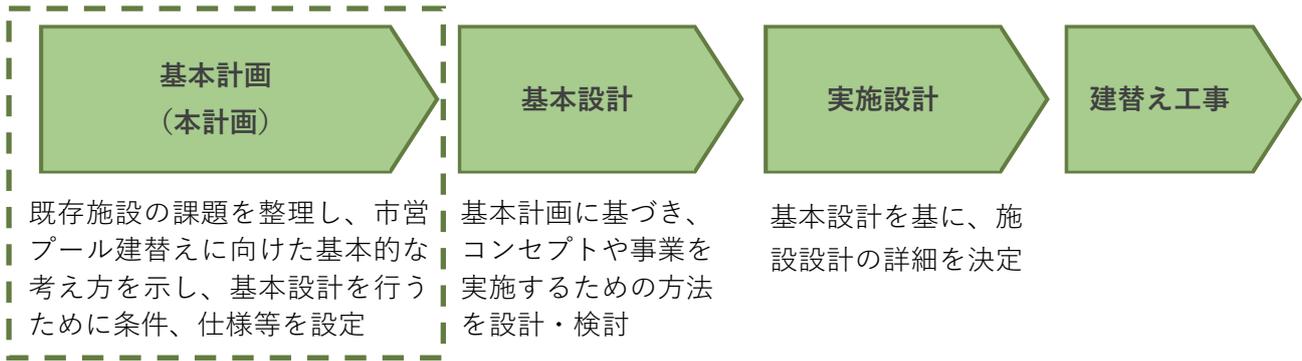
本計画は、市の最上位計画である武蔵野市第六期長期計画・第二次調整計画をはじめ、第2期武蔵野市公共施設等総合管理計画、武蔵野市立体育施設類型別施設整備計画、第二期武蔵野市スポーツ推進計画に基づき、市営プールの更新について基本的な考え方を示すものです。計画策定に当たっては、『武蔵野市営プール整備方針』の内容を基に検討を進めてきました。

本事業内における位置づけとしては、既存施設の課題整理と、建替えに向けた基本的な考え方を示し、基本設計・実施設計を行うため条件や仕様等を設定していくものとなります。

上位計画等との関係



本事業における位置づけ



3 計画策定のプロセス

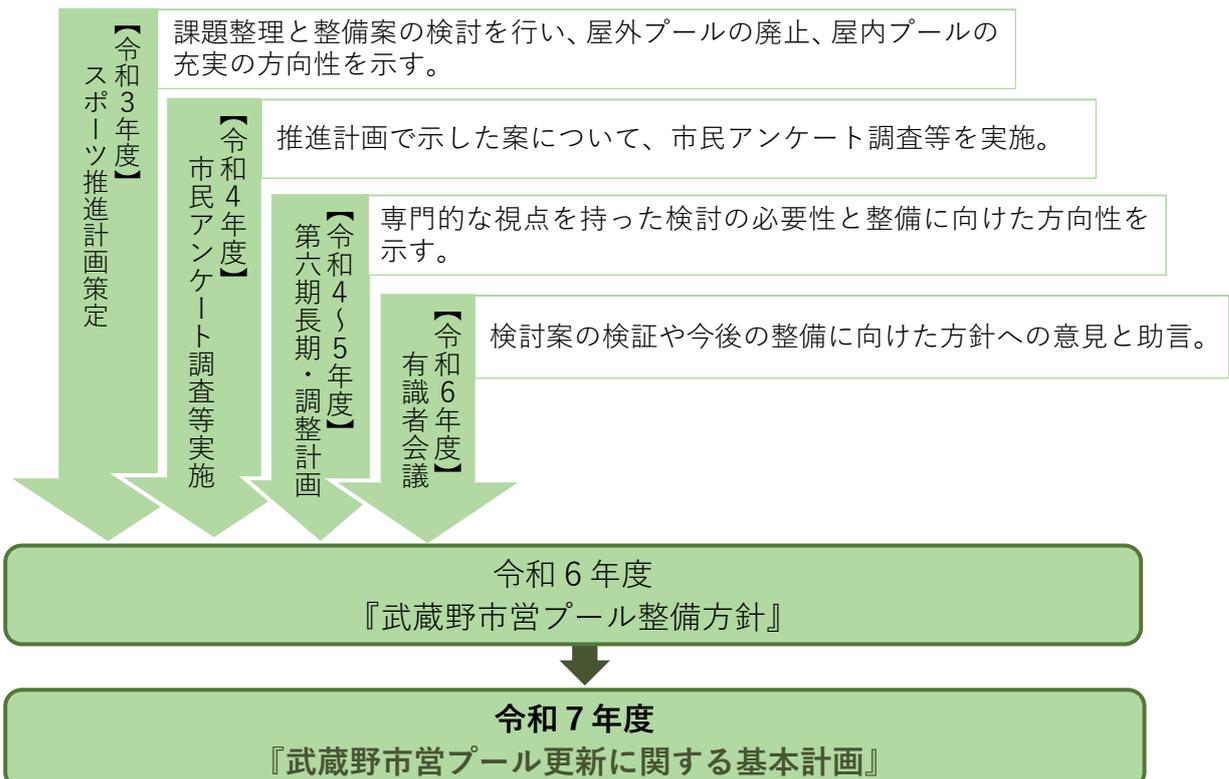
本基本計画は、これまでの検討経緯や市民意見の反映を踏まえて策定したものです。

令和3年度に策定した「第二期武蔵野市スポーツ推進計画」において、市営プールの老朽化や機能不足が課題として位置づけられました。

令和4年度には市営プール整備の方向性について、スポーツ推進計画の中で挙げられた3つの案※を示しながら市民アンケートや利用者ヒアリング、ワークショップを実施し、多様な利用者ニーズや課題認識を把握しました。

さらに、令和5年度に策定された「第六期長期計画・調整計画」では、策定委員会にて令和4年度に実施したアンケートやヒアリングの内容を報告し、市営プールの更新について議論していただき、誰もが利用しやすいプールの充実を検討するよう示されました。また、令和6年度に設置した有識者会議では、専門的な視点から施設の在り方や整備方針に関する助言が行われました。この間に得られた様々な意見を基に、令和7年1月に『武蔵野市営プール整備方針』を策定し、施設更新に向けた基本的な方向性を示しました。

本基本計画は、こうした上位計画や整備方針、市民意見や有識者の助言を統合し、現状分析から整備の基本方針、具体的な施設計画や事業手法までを体系的に整理したものです。



※令和3年度「第二期武蔵野市スポーツ推進計画」に示された3つの案

案1	現施設の保全改修工事を行って継続利用する。(現状維持)
案2	屋外・温水プール、管理棟を建て替え、屋外プールを25mに縮小し、屋内プールに機能を集約化する。
案3	温水プール・管理棟を建て替え、屋外プールを廃止し、屋内プールなどの機能を拡充する。

スポーツ推進計画では案3を採用。

市民アンケート等でも案3が支持を集めました。

第2章 現状と課題

1 市営プールの概要

(1)立地と周辺環境

本市営プールは、市役所庁舎に隣接し、総合体育館、陸上競技場、軟式野球場、庭球場などが集まるスポーツ・公共施設ゾーンの一部に位置しています。これらの施設は、市民のスポーツ推進や健康づくりの拠点であるとともに、地域コミュニティの交流や大会開催など多様な機能を担っており、市営プールもその一翼を担う存在となっています。

また、隣接するクリーンセンターでは、ごみ焼却により発生した熱エネルギーを回収し、市役所や総合体育館などへ温水や蒸気として供給しており、エリア全体の効率的な運営と環境負荷の低減に寄与しています。さらに、隣接する環境啓発施設「むさしのエコre ゾート」は、資源循環やエネルギーなどをテーマとする学びと体験の拠点であり、複合的な利用の可能性を持っています。

加えて、周辺環境の観点からは、市道 17 号線側敷地において、快適で安全な歩行空間を確保することが求められており、地域に開かれた公共施設としての利便性と環境性を高める視点が重要となります。



(2)建設経緯

戦前、中島飛行機株式会社の施設として整備されたプールを、昭和 28 年に市営プールとして供用開始し、その後昭和 57 年に管理棟が、平成元年に総合体育館とともに屋内プールが建設されました。

○昭和 28（1953）年 3 月

「武蔵野市体育施設使用条例」施行

使用料は 1 日子ども 10 円、大人 20 円と定められた

○昭和 28（1953）年 6 月

市営プール開場

この年の入場者数は約 48,000 人



昭和 28 年当時の様子

○昭和 35（1960）年 12 月

児童用プールを新設することが議会で可決される

○昭和 36（1961）年 8 月

児童用プール完成



当時の幼児プール

○昭和 41（1966）年 7 月

幼児プール完成

当時は円形ではなくうさぎの形をしていた

○昭和 57（1982）年 6 月

管理棟が完成し、市営プール（屋外）が改装オープン



屋外プール外観

○昭和 63（1988）年 6 月

屋内プールの建設工事開始

○平成元（1989）年 6 月

「武蔵野市体育施設条例」施行

夏季使用料は 2 時間大人 200 円となったが子どもは 10 円のまま据え置かれた



屋外プール、管理棟

○平成元（1989）年 11 月

屋内プール完成

総合体育館と合わせて完成記念として 18 日間、無料開放した



屋内プール

出典：武蔵野文化生涯学習事業団ホームページ

(3)施設概要

本市営プールは、管理棟、温水プール棟および屋外プールで構成されています。

管理棟は昭和 57 年に建設され、更衣室、事務室、休憩スペースなどの基礎的な機能を備え、施設全体の運営拠点となっています。

温水プール棟は平成元年に竣工し、25mプール（7コース）および 15m×8mのサブプールを備えており、年間を通して利用することができます。水泳教室や市民の健康増進の場として幅広く活用されています。

一方、屋外プールは戦時中に中島飛行機株式会社の施設として整備されたもので、昭和 28 年に市営プールとして供用を開始した歴史を持っています。以来、夏季限定で市民に親しまれてきましたが、経年劣化による老朽化が著しく進行しています。

これらの施設は長年にわたり、市民のスポーツやレクリエーション活動を支える重要な拠点として利用されてきました。しかし、バリアフリー対応や衛生環境、防災性、省エネルギー性能などの面で現行の基準に十分対応しておらず、利用者の安全性と快適性を確保するためには、施設全体の更新が求められています。

建設概要（武蔵野温水プール、管理棟、屋外プール）	
竣工年月	武蔵野温水プール : 平成元（1989）年 8 月 管理棟 : 昭和 57（1982）年 5 月 屋外プール : 不明
供用開始年月	武蔵野温水プール : 平成元（1989）年 11 月 管理棟 : 昭和 57（1982）年 6 月 屋外プール : 昭和 28（1953）年 6 月
以下は建築物のみ表記	
敷地面積	56,689.24 m ² うち市有地 : 55,286.17 m ² うち借地 : 1,403.07 m ² ※総合体育館、陸上競技場、温水プールと一体で建築確認申請を行っている。
延べ床面積	3,224.91 m ² （屋外プールは含まない） 温水プール : 1,823.14 m ² 管理棟 : 1,345.77 m ² 屋外プール（トイレ棟） : 56 m ² ※屋外プール築造面積は約 3,500 m ²
建築面積	2,496.95 m ² 温水プール : 1,519.89 m ² 管理棟 : 921.06 m ² 屋外プール（トイレ棟） : 56 m ²
階数	温水プール : 地下 1 階、地上 2 階 管理棟 : 地上 2 階、PH 1 階 屋外プール（トイレ棟） : 地上 1 階
構造	温水プール : SRC 造、一部 RC 造 管理棟 : RC 造 屋外プール（トイレ棟） : RC 造

(4)利用者数の推移

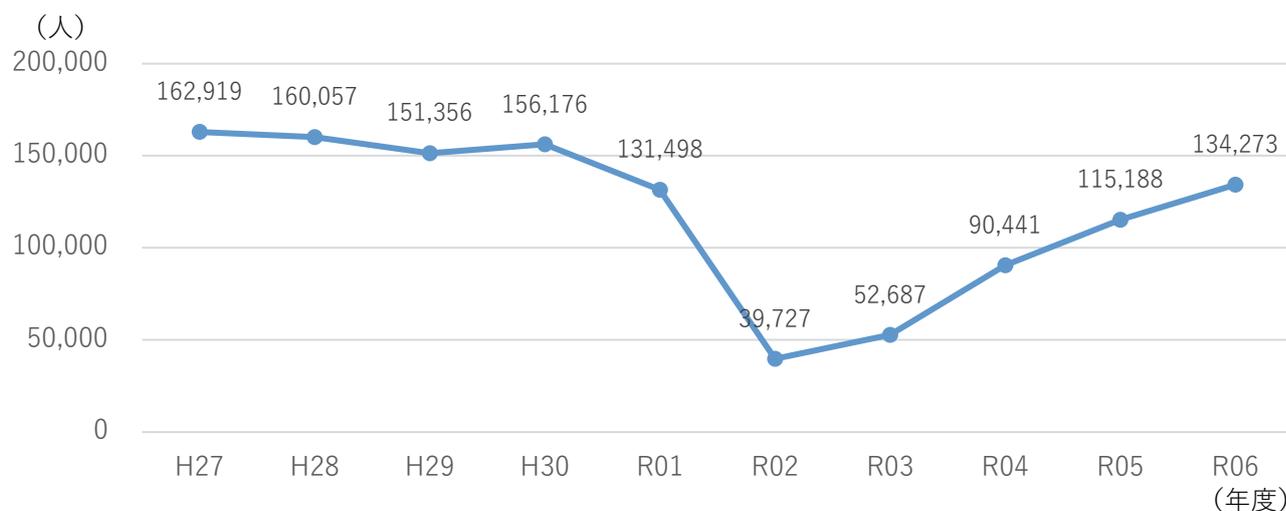
市営プールの年間利用者数は、平成30年度までは15～16万人ほどで推移していましたが、令和元年度13万人台まで減少しました。コロナ禍を経て回復基調にあり、令和6年度は令和元年度と同等の13万人台となっています。

月別で見ると、利用者の約半数が屋外プールを開放する7月から9月の夏季3か月間に集中しています。利用者数の季節的な変動が大きいことが、利用実態における屋外プールをもたない近隣自治体との違いです。

□市営プール年度別利用者数

単位 (人)

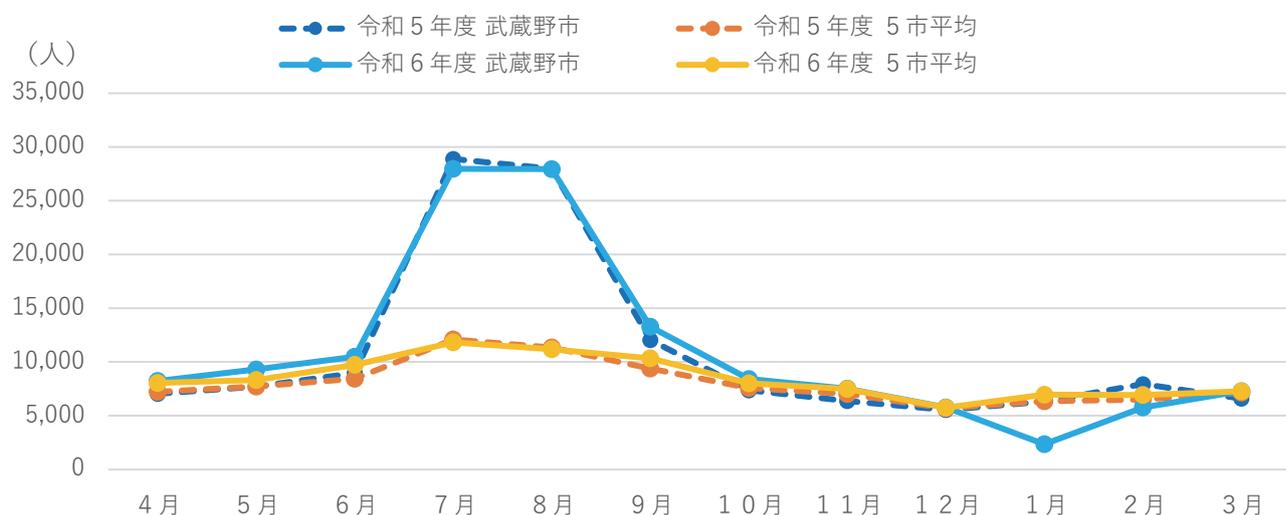
年度	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
年間利用者数	162,919	160,057	151,356	156,176	131,498	39,727	52,687	90,441	115,188	134,273



□月別利用者数の近隣5市平均との比較 (令和5・6年度)

単位 (人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和5年度	武蔵野市	7,034	7,699	8,958	28,890	27,970	12,042	7,360	6,359	5,535	6,308	7,943	6,581
	5市平均	7,216	7,713	8,431	12,090	11,341	9,382	7,572	7,015	5,692	6,336	6,500	7,139
令和6年度	武蔵野市	8,226	9,301	10,480	27,961	27,940	13,277	8,410	7,515	5,769	2,353	5,759	7,282
	5市平均	8,043	8,318	9,727	11,816	11,182	10,332	8,010	7,485	5,741	6,957	6,920	7,271



2 現状の課題

市営プールは、これまで市民の健康づくりやレクリエーション、交流の場として広く親しまれてきましたが、竣工から長い年月が経ち、老朽化や社会的ニーズの変化により、様々な課題が見られるようになってきました。設備の劣化だけでなく、安全性や快適性、バリアフリーや多様な利用への配慮、市民が安心して集える環境の面でも改善が求められています。

ここでは、こうした現状を整理するために課題を二つの視点に分けて示します。

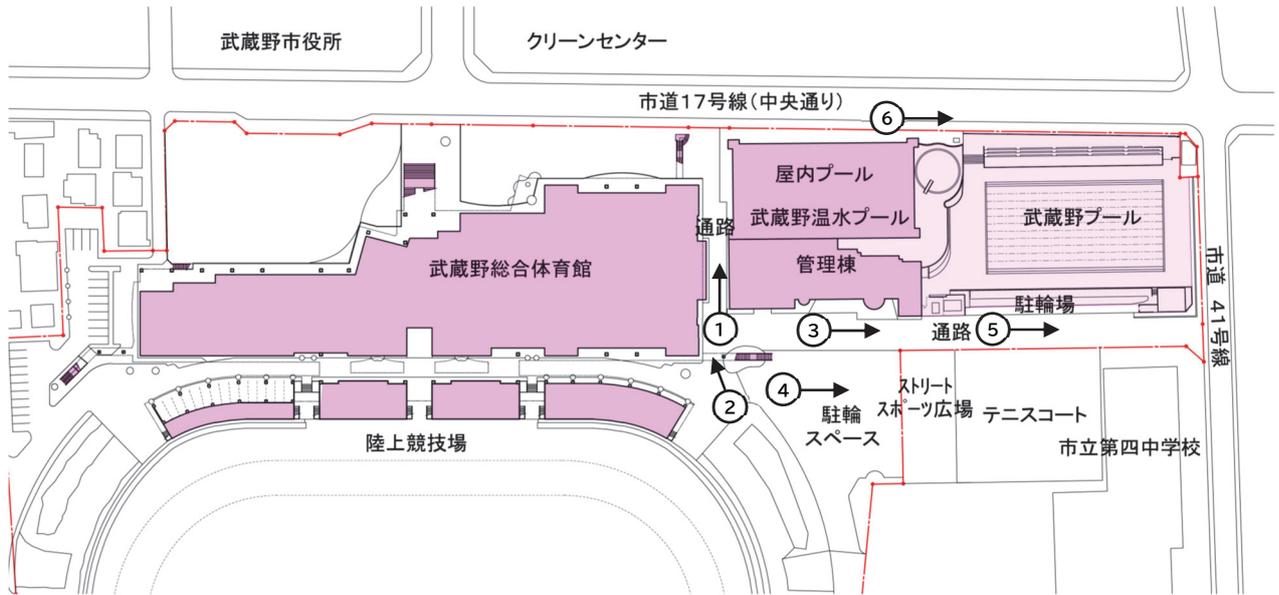
ひとつは、市道や歩道の安全性、自転車や緊急車両の動線、広場やオープンスペースの不足といった「周辺環境に関する課題」です。

もうひとつは、プールや建物の老朽化、バリアフリーやユニバーサルデザインへの対応不足、休憩や交流の場の不足など「施設に関する課題」です。

二つの課題を整理していくことで、基本計画で検討する施設の基本的な規模・機能・配置等を今後の基本設計・実施設計を進める際の具体的な改善策へとつなげていきます。

(1)周辺環境に関する課題

道路・歩道環境
敷地の西側を通る市道 17 号線は歩道が狭く、バス停も設置されており、利用者や近隣住民にとって安全な歩行空間が十分に確保されていない。
景観整備優先路に指定されていることから、歩道幅員の部分的な拡張等、歩行空間の改善が求められる。
敷地内動線と車両対応
市道からの車両進入路は幅員が狭くクランクしており、イベント時の大型バスや緊急時の大型車両の通行、駐車スペースとして支障がある。
イベント時や団体利用等に必要となる関係者用駐車スペースが不足している。
自転車駐輪環境
来場者にとって利用頻度の高い自転車置場の規模や配置が不十分で、混雑や安全性の課題が見られる。
公共空間
隣接する総合体育館等との回遊性はあるものの、利用者が気軽に集い、休憩や交流を行える広場的空間が不足している。



現況施設配置図

①



②



③



④



⑤

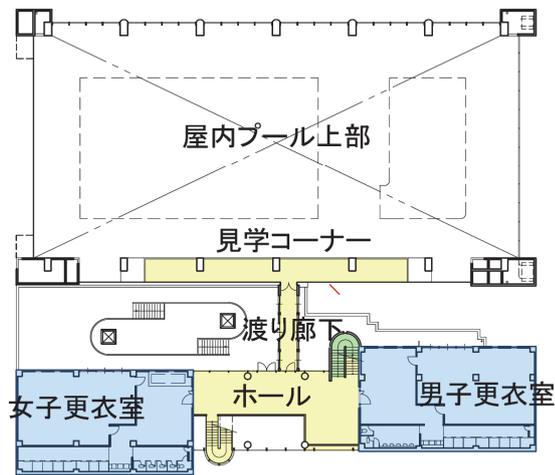


⑥



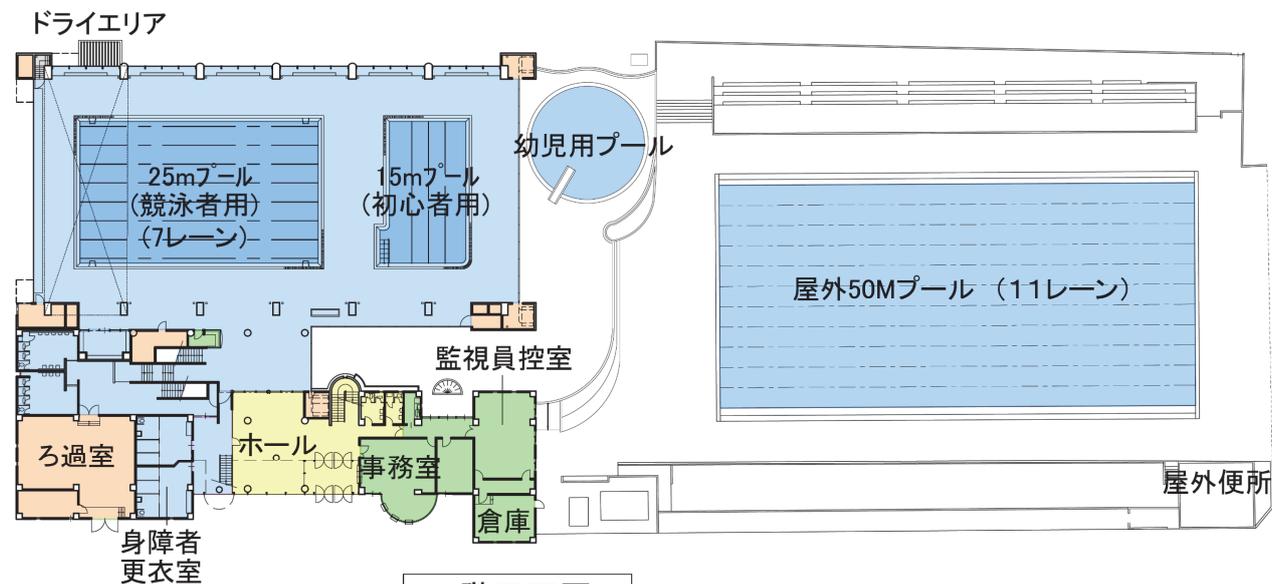
(2)施設に関する課題

建物の老朽化と機能性	
	管理棟や温水プール棟は経年劣化により、衛生設備や空調、換気設備の老朽化が著しい。
	エレベーターが未設置であり、2階更衣室や観覧席へのアクセスに支障がある。
	施設とプールの動線計画に不備があり、着衣者と泳者の動線が交錯しやすい。
プールの課題	
	温水プールでは床材や可動式設備の劣化が進行し、一部が十分に機能していない。
	屋外プールは水深が深く、子どもの利用には水深調整台を必要とするほか、プールサイドの床材劣化や日よけ設備の不足等が課題となっている。
	近年、夏季の気温が非常に高いことや、集中豪雨や突然の雷など、気象条件が厳しくなりつつある中、屋外プールの安全な運営が課題となっている。
	屋内の幼児用プールやジャグジーなどの付帯機能が整備されていない。
バリアフリー・ユニバーサルデザイン	
	出入口やトイレに段差があり、障害者用更衣室、シャワー室の十分な配慮がなされていない。
	おむつ替え等のスペースがなく、多目的更衣室や、子育て世帯等の多様な利用者への対応が不十分。
休憩・交流スペース等	
	利用者が安心して休憩できるラウンジや、団体利用時の打合せや待機に利用できる多目的スペースが不足している。
	観覧席数が限られており、子どもの水泳教室や競技大会時の観覧環境が十分ではない。
運営管理に関連する課題	
	更衣室出入口の利用者動線が混雑する。
	強制シャワーを通過せずにプールへ出入りできるなど、衛生管理上の課題がある。
	管理棟の空調の効きが悪く、夏季・冬季の快適性が確保できていない。



- : 管理ゾーン
- : パブリックゾーン
- : 更衣ゾーン
- : プールゾーン

2階平面図



1階平面図

現況平面図



第3章 利用者ニーズと関係者意見

1 利用者ニーズ

(1) 子ども・保護者等へのヒアリング

①ヒアリング概要

- ・対象 : 小学生・中学生・高校生・同伴の保護者など
- ・ヒアリング方法 : 市営プールを利用している子どもとその保護者から直接ヒアリングを行った。
- ・実施時期 : 令和7年8月19日(火)～23日(土)
- ・聴取人数 : 子ども:222名、保護者等:95名

②主な意見

分類	テーマ	主な意見・要望
プール規模	広さ・深さ	<ul style="list-style-type: none"> ・「もっと広いプールがいい」 ・深いプールや浅いプールの区分を拡大してほしい。 ・幼児や低学年も安心して使える水深を確保してほしい。
屋外環境	屋外プール	<ul style="list-style-type: none"> ・「屋外プールが好き」「残してほしい」複数。 ・屋外ベンチが暑く座れない→日よけ設備等の増設希望。
遊具・レジャー	ウォータースライダー	<ul style="list-style-type: none"> ・「小学生用スライダー」「大きなスライダー」「競争できるスライダー」など多様な要望。 ・波・滝などレジャー要素を求める声多数。
	流れるプール	<ul style="list-style-type: none"> ・「流れるプールがほしい」意見が児童、保護者ともに非常に多い。
	その他遊具	<ul style="list-style-type: none"> ・飛び込み台、噴水、波の出るプール、アスレチック、ボール遊びができるスペースなど。
快適性・休憩	設備	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェスペース希望（アイス、飲み物、食堂など） ・ジャグジーやサウナの設置、採暖室の継続希望。 ・観覧席やキッズスペースの充実要望。
バリアフリー	設備・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・祖父母が付き添う際に階段がづらい→スロープ、段差解消希望。 ・親子更衣室、家族更衣室の不足を指摘。
衛生・安全	更衣室・トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・「トイレが和式で使えない」「においが嫌」 ・更衣室が狭い／濡れて不衛生。 ・ドライヤーや大きなロッカー希望。
	プール環境	<ul style="list-style-type: none"> ・床がぬるぬるする／痛い。 ・排水溝が汚い。 ・清掃や安全性確保の要望。 ・冬の利用時に館内が寒い。
利用方法	利用制限	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外幼児プールを小学生が利用できない制限への不満。
	料金・運営	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季の「10円の料金はありがたい」 ・低料金を評価する意見多数。
その他要望	工事・代替施設	<ul style="list-style-type: none"> ・工事期間中の代替プール確保を求める声。 ・プールの屋内化や開閉式屋根設置への期待。

(2)高齢者へのヒアリング

①ヒアリング概要

- ・対象 : 高齢者（高齢者総合センター）
- ・ヒアリング方法 : 健康増進イベントの参加者である高齢者にグループヒアリング
- ・実施時期 : 令和7年9月15日（月祝）
- ・聴取人数 : 47名（うち約3割が市営プール利用経験者）

②主な意見

分類	主な意見・要望
快適性	<ul style="list-style-type: none">・シャワーの数が少なく混雑する。・シャンプーを使用できるようにしてほしい。・シャワーだけでなくお風呂（浴槽）がほしい。（複数）・壁から温風が出る乾燥システム（温風ドライ）を導入してほしい。・ドライヤーの設置を要望されている。
動線	<ul style="list-style-type: none">・更衣室とプールの距離が遠く、階が異なるため移動が大変。・特に冬場は寒く、身体への負担が大きい。
利用環境	<ul style="list-style-type: none">・高齢者が利用しやすいバリアフリーな施設を要望する。

(3)利用者から寄せられた意見

①意見収集概要

- ・対象 : プールを利用する幅広い世代の市民からの意見
- ・意見収集方法 : 市営プールの現施設ロビーに設置した「利用者意見箱」に寄せられた声を収集し、整理したもの。
- ・実施期間 : 令和7年4月～7月
- ・意見件数 : 約70件

②主な意見

分類	テーマ	主な意見・要望
運用	営業時間・期間	・朝の開場時間を早めてほしい。 ・屋外プールを6月から開放してほしい。 ・屋外プールを9月末まで開放してほしい。
	混雑・安全	・混雑時に背泳ぎや救助訓練は危険。 ・団体貸切による一般利用制限に不満。
	ルール運用	・営利目的の個人レッスン禁止の徹底。
設備	清潔さ・衛生	・更衣室床が濡れて不衛生。 ・シャワーの水温や出方に不満。 ・痰や髪の毛の放置に嫌悪感。
	快適性	・更衣室にベンチや荷物置きを増やしてほしい。 ・高齢者が着替えやすい設備が必要。
	新たな機能	・ウォータースライダーや流れるプールが欲しい。 ・飛び込み台を設置してほしい。
	環境	・天井ガラスは「自然光で良い」との声と「まぶしい」との否定的意見。
利用方法	コース利用	・コースのルール表示が不明瞭で混乱する。 ・泳ぐ速さでコースを区分してほしい。
	マナー	・小中学生の横泳ぎや鬼ごっこで危険。 ・水中ウォーキング専用コースの水しぶき問題。
その他	利用料金	・「料金が安くて助かる」一方で「子ども料金10円は極端」との意見。
	スタッフ対応	・「スタッフが優しい」「清掃が行き届いている」と感謝の声多数。
	施設環境	・「天井が高く気持ち良い」「夏の屋外プールが救い」との意見。

(4)利用者ニーズの整理と課題

幅広い利用者からのヒアリングと利用者意見箱を通じて得られた利用者の声から、市営プールに求められる基本機能は「安全」「清潔」「快適」であることが明確となった。屋外プールの存続については一定数の利用者が要望しており、屋外の開放感を評価する意見がある一方で、日焼けや気象状況の変化による天候リスクを懸念する声も見られます。

また、流れるプールやウォータースライダー等の施設、遊具の設置については、特に子ども世代を中心に多くの意見が寄せられており、保護者も一定の理解を示しています。レジャー要素の導入は検討課題の一つと位置づけられます。

さらに、更衣室やトイレの衛生改善、混雑解消、利用ルールの明確化、家族利用やバリアフリー対応といった課題も広く指摘されている。高齢者からは、シャワーや浴室機能の充実、冬季の寒さ対策や、プールと更衣室の移動距離への配慮など、快適性や温熱環境の改善が重要な視点となっています。

また、カフェやキッズスペースなど休憩・交流機能の拡充を求める声もみられ、多世代が安心して快適に利用できる施設づくりが期待されています。

利用者の意見を踏まえると、市営プールには「誰もが安全に、気持ちよく利用できる施設」としての役割が求められており、多様な利用者ニーズを適切に反映させることが重要です。

[まとめ]

分類	課題や利用者ニーズ
屋外プール	「屋外プールを残してほしい」との意見は、屋外の開放感を評価するものであるが、一方で日焼けや天候リスクを懸念する意見もあり、暑さ対策のための日よけの設置など快適性向上が求められる。
レジャー要素の強化	ウォータースライダーや流れるプールの導入を求める声が子どもを中心に非常に多く、保護者も概ね肯定的。飛び込み台や噴水、波の出るプールなど多様な要望も寄せられた。
清潔さ・快適性	更衣室やトイレについては一定数評価する声がある一方で衛生環境に関する不満が多く、清掃強化や便器の洋式化などが求められる。また、カフェスペースやキッズスペース、観覧席、サウナ、ジャグジーなど休憩や快適性を高める機能への期待も大きい。
混雑と利用制限	夏季の混雑による安全性への懸念や、団体貸切・年齢区分による利用制限への不満が目立つ。施設の広さ確保やコース利用ルールの明確化等、柔軟な運用が課題。
ルール・マナー	個人レッスンに関する指摘、子どもの遊泳マナーへの懸念などがあり、運用ルールの明確化と周知徹底が不可欠。
バリアフリー・家族対応	高齢者や幼児を伴う利用者からは、段差解消やスロープ設置、親子・家族更衣室の整備といったユニバーサルデザインへの要望が多い。
建築環境	ガラス天井に関して「自然光で良い」との肯定的意見と「まぶしい」との否定的意見が分かれ、設計にあたって慎重な検討が必要。
工事期間への懸念	工事中の長期休場に不安を抱く声があり、代替施設の確保や周知が求められている。

2 関係者への意見聴取

(1)競技団体等(スポーツ推進委員・水泳連盟)

ア) スポーツ推進委員

①意見収集概要

- ・対象 : 武蔵野市スポーツ推進委員 (全 31 名)
- ・意見収集方法 : オンラインフォームによる自由記述 (メール回答含む)
- ・実施期間 : 令和 7 年 8 月 20 日~9 月 8 日
- ・意見件数 : 13 件

②主な意見

分類	主な意見
プール規模・機能	競技スポーツとしての大会や練習に対応する 50m プールを望む声もある。競泳用、健康増進用、子どもの遊び場用、それぞれの空間を確保してほしい。
プール	夏の屋外プールは市民にとって魅力的だった。窓の開放など屋外の要素を取り入れるべき。プールではなくても、じゃぶじゃぶ池のような設備もあるとよい。
快適性・交流	カフェ、ラウンジ、観覧席の充実を望む。
衛生・安全	更衣室や廊下の湿気対策、トイレの洋式化、シャワーを通る動線、監視しやすい構造を希望。
バリアフリー	車椅子利用者や高齢者に対応できる動線、更衣室やエレベーターの整備を求める。
環境・連携	余熱利用や緑化など環境配慮。総合体育館とともに、健康増進施設や憩いの場としての機能を持たせる。
市民利用	市民利用を優先するために、料金の差別化などを検討してほしい。

イ) 水泳連盟

①ヒアリング概要

- ・対象 : 武蔵野市水泳連盟 (代表者 4 名)
- ・ヒアリング方法 : 対面ヒアリング
- ・実施期間 : 令和 7 年 9 月 3 日

②主な意見

分類	主な意見
プール	長水路 (50m プール) はこだわらず、公認仕様 (タッチ板厚み等)、水深・コース数、オーバーフロー方式、可動床を望む。
安全・環境	長辺は渚式 (水面とプールサイドがほぼ同じ高さにあるプール)、短辺は高さ確保で安全性を担保。多様な入水手段 (スロープ、手すり、後付階段) が必要。 冬期の寒さ対策。
サブプール	高齢者や障害者利用に適した水深・構造。 ウォーキング床の素材に注意。
更衣室・衛生	ロッカーが古く小さい、シャワー不足、更衣室とプールの動線交錯の改善。鏡前に座れるスペースがほしい。
サウナ等	サウナ、ジャグジー。採暖室の設備を希望。
トイレ	洋式増設希望。濡れたまま使える和式も必要。
観覧環境	観覧席は 2 階に配置。
利便性	タオル掛け・荷物置き、冷水機の増設、シャンプー使用可能な浴室を希望。

(2)福祉施設職員

①ヒアリング概要

- ・対象 : 障害者福祉センター職員、
都立多摩障害者スポーツセンター職員（障害者専用スポーツ施設）
- ・ヒアリング方法 : 現地訪問・施設見学・対面ヒアリング
- ・実施期間 : 令和7年9月1日、9月4日

②主な意見（障害者専用施設として考えた場合の意見）

分類	主な意見
入水・動線	入水用リフト、スロープ、手すりが必要。車椅子対応の段差解消動線を整備。
水深・温度	水深1.1～1.3mが歩行に適する。水温は31℃前後が望ましい。
利用区分	障害者専用の時間やコース区分が有効。
更衣室・トイレ	介助者も利用できる更衣室。広い個室更衣室。多機能トイレ。ベッド・低い鏡台。
駐車場	車椅子用駐車場を入口近くに設置。
安全性	プール底の段差は不安。視覚障害者が手すりに沿って歩ける設計を。
案内	点字ブロックや案内板、ハイカウンターとローカウンター両方の受付が必要。

(3)関係者意見の整理と課題

関係者ヒアリングでは、利用者の声を補完する形で、競技・福祉といった立場から多様な視点が示されました。

競技団体からは、大会や練習に対応できるための水深やコース数、公認仕様の確保など具体的な要望がありました。一方で、健康づくりや子どもの水遊びといった一般利用との調和も重視されています。

福祉団体からは、リフトやスロープ、段差のない動線、多機能トイレや介助者対応更衣室など、ユニバーサルデザインの徹底を求める声が多く、視覚障害者への配慮といった具体的な提案も示されました。

共通するのは、清潔で快適な施設環境を確保することへの強い関心であり、更衣室やトイレの改善、監視や安全性の向上、快適性や交流機能、環境への配慮、周辺施設との連携といった幅広い意見が寄せられました。

これらを踏まえると、市営プールには競技利用、健康増進、多様な利用者への配慮を兼ね備えた整備が求められており、今後の計画に反映すべき重要な視点となります。

[まとめ]

分類	意見の整理と課題
競技利用	公認仕様や水深・コース数の確保など競技利用に必要な条件が求められる一方、市民利用との両立が課題。 必ずしも 50m プールを望むわけではなく、25m プールであっても公認仕様を満たしていれば運用上問題はない。
屋外プール	夏季の開放感や市民にとっての魅力として一定の評価がある。
快適性・交流	カフェや観覧席など快適性向上の要望が多いが、既存施設との機能分担を整理することが課題。
衛生・安全	更衣室やトイレの衛生改善、湿気対策、監視しやすい構造など、基本的条件の整備が不可欠。
バリアフリー	高齢者・障害者を含め、誰もが安心して利用できるための動線や設備整備が重要課題。
福祉的配慮	障害特性に応じた環境（点字案内、介助者対応更衣室等）が必要であり、ユニバーサルデザインを徹底することが求められる。
環境・持続性	余熱利用や緑化など、環境にやさしい施設運営を持続的に行う視点が必要。
周辺連携	総合体育館とともに、交流や憩いの場としての機能を持たせる。
運営	市民が安心して利用できるよう、市民利用の優先や料金体系の在り方を含め検討が課題。

第4章 市営プールの整備方針

前章までの検討を踏まえ、以下のコンセプトと方針に沿って整備を行います。

1 計画のコンセプト

本計画においては、『武蔵野市営プール整備方針』で示された5つのコンセプトを、3つにまとめました。

I 誰もが利用しやすい安心・安全なプール

性別・年齢・障害の有無を問わず、誰もが安心して利用できる環境を整備します。

競泳から健康増進、レクリエーションまで幅広い利用目的に応えるとともに、救護室や監視室の配置、水質管理や衛生的な更衣室整備など、安全性と快適性を重視した施設とします。

II 市民の交流の場を創出

世代を超えて市民が集い、交流が生まれる開放的で明るい空間を整えます。

プール利用者のみならず、周辺施設を訪れる人々にとっても憩いや休憩の場となるよう、広場や共有スペースの一体的な整備を進め、地域コミュニティの活性化に寄与します。

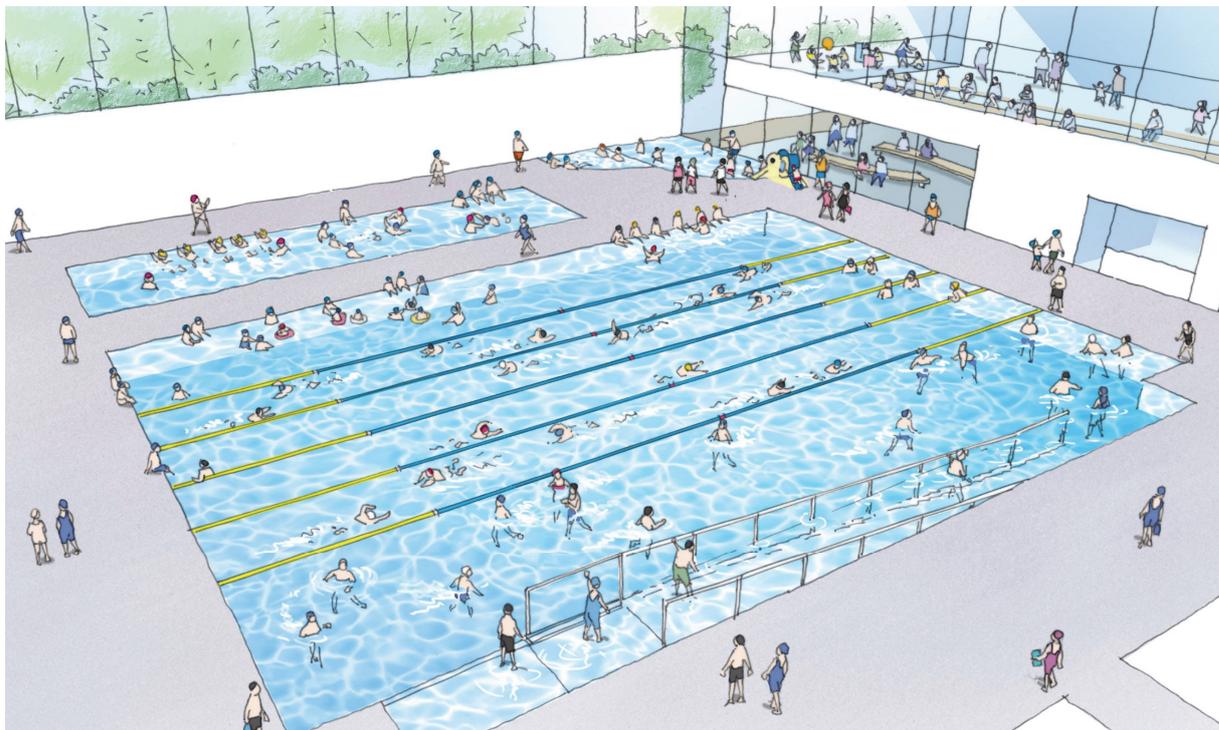
III 環境に配慮した周辺施設との一体的なまちづくり

クリーンセンターの排熱利用や自然エネルギーの活用、省エネ機器の採用など、環境にやさしい仕組みを取り入れます。さらに市役所やクリーンセンター、エコreゾートと連携し、エネルギー活用を発信できる拠点とします。

また、中央通り側歩道幅員の部分的な拡張等による歩行空間の創出や広場整備、災害時の活動拠点としての道路拡幅・緊急車両スペースの確保など、周辺施設と一体となった魅力あるまちづくりを実現します。

2 施設整備の方針

1 誰もが利用しやすい安心・安全なプール



【プールイメージ】

1) 年間を通して快適に使えるプールの整備

- 屋外プールは夏季の2か月半の間だけ開放されており、また、気候条件によっては利用ができなくなるなどから、利用可能期間の短さや安全性に課題がありました。
- 屋外プールを廃止、全天候で使える屋内プールとし、安全面・衛生面で優れた設備を整備することで、年間を通し安定して快適にプールを利用することができるようにします。年間の利用者数の増加を目指します。
- 夏季プールの入場制限がかかる場合には、利用者が混雑状況を事前に把握できる工夫をします。
- 健康づくりや水泳技術向上のために泳ぐ利用者には市立第四中学校プールの施設利用を継続して実施します。

2) 多様な利用を想定したプール整備

- 水泳技術向上のためのスイミングのほか、ウォーキング、水泳教室、イベントといった様々な利用方法に対応するため、25m メインプールとサブプールを設け、利用者の安全性を確保します。25m メインプールでは、利用形態に沿った十分なコース数を確保し昇降式の床を採用します。サブプールは児童利用もできるよう水深を浅く、保護者の目が届く規模に設えます。
- 利用者ニーズに寄り添ったレクリエーションプールを整備します。
- 休憩時や運動後に体を温める「採暖室」や「ジャグジー」を設けます。

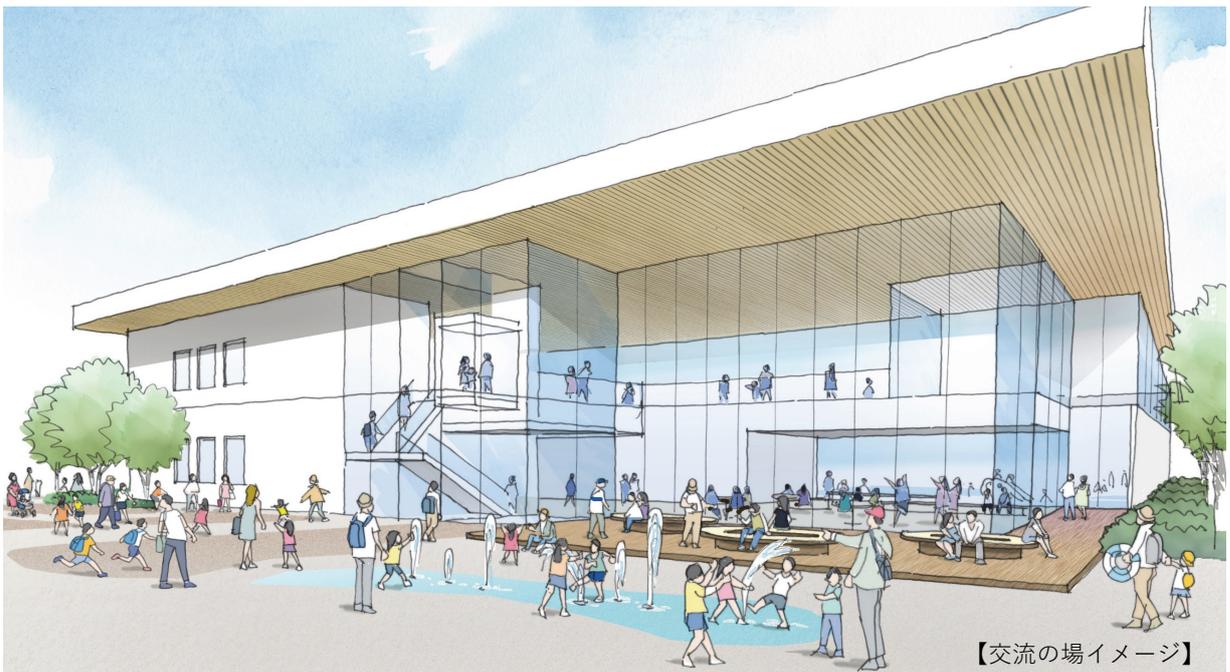
3) 誰もが安心して利用できるユニバーサルデザイン

- 性別、年齢、障害の有無にかかわらず、誰もが利用できるユニバーサルデザインやバリアフリーに対応したプール整備を行います。
- 家族や介助者と一緒に利用できる更衣室や多目的トイレを完備します。
- 屋外要素を取り入れた外部テラスを設けます。
- バリアフリー法、高齢者・障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計基準、東京都建築物バリアフリー条例、東京都福祉のまちづくり条例に加え、本市のバリアフリー基本構想 2022 に基づいた整備を行います。

4) 安心・快適な環境の確保

- 施設内の諸室レイアウトは利用者と管理者の動線分離を図り、お互いの利便性や安全確保に配慮します。
- プールエリアは外部からの視線制御を徹底した安全性を確保する設計とします。
- 管理運営にも配慮した倉庫や機械室の配置を行います。
- 耐久性のある構造を採用し、長寿命化と維持管理のしやすさに配慮した施設とします。

II 市民の交流の場を創出



1) 広場と一体となった憩いの空間

- テラスやホール、ラウンジが屋外広場と一体的に利用できる空間を設け、日常利用やイベント利用に柔軟に対応できる施設とします。
- 親子や広場利用の人々が快適に利用できる場所として飲食休憩スペースを設けます。

2) 家族で楽しめる観覧環境

- 観客席を2階に設け、プール利用の家族が子どもを容易に見守ることができる場所を設けます。
- 観客席に付随したキッズスペースの設置により、待機中の子どもが飽きない工夫を行います。

III 環境に配慮した周辺施設との一体的なまちづくり



【広場イメージ】

1) 施設と連携した広場・まちづくり

- 市役所やクリーンセンター、むさしのエコre ゾート等の周辺施設の特性を生かして、市営プール前の広場を拡張し、イベントや交流、休憩や災害時利用ができる設えとします。
- プール西側の中央通りの利便性向上と安全性のため、バス停を含めた歩道拡張を行います。
- 広場空間とともに、既存と同等台数を確保した駐輪場を再整備します。

2) 環境負荷を抑えたエネルギー活用

- クリーンセンター熱源を利用した環境にやさしいプールとします。
- 自然換気による快適な環境を整えると同時に LED 照明と自然採光による使用エネルギーの抑制等環境負荷低減策を積極的に採用します。

3) 環境に配慮した施設整備

- 自然温室効果ガス排出実質ゼロを目指す 2050 年ゼロカーボンシティの実現に向け、可能な限りの省エネ、創エネ対策を合わせて、未評価技術を積極的に採用し、武蔵野市公共施設の環境配慮指針に定められたエネルギー消費性能水準に適合する施設を目指します。

4) 社会情勢に配慮した整備

- 高騰する建築費や維持費、将来的な公共施設やインフラの更新等に多額の費用が見込まれているため、施設を適切な規模に設計するよう計画を進めます。

5) 防災拠点としての機能強化

- 災害時も安心して一時避難できる安全な建築物と広場空間を整備します。

第5章 市営プールの施設整備計画

新しい市営プールに求められる空間を創出するにあたり、適切な配置計画と建物規模、必要諸室や各エリア機能について以下のように整理します。

1 配置計画

(1) 周辺施設との関係性

周辺には市役所、総合体育館、陸上競技場、軟式野球場、庭球場、クリーンセンター、むさしのエコreゾート等の公共施設が集積しています。地域交流や学びの場が広がるエリアに開かれた広場を配置するとともに、各エリアへアクセスしやすい外構を整備します。

(2) 配置計画

新たに配置する広場は、自転車や歩行者の動線、イベントや憩いの場としての機能を持たせます。また、緊急車両や管理車両がスムーズに通行できるスペースを設け、駐輪場を集約し、安全の確保と管理がしやすい計画とします。

施設については、広場と一体的な利用がしやすいよう適切な規模やエントランス配置とします。また、市道第17号線である中央通りは「武蔵野市景観道路計画 令和5年3月」における無電柱化整備路線として今後整備予定であり、景観づくりに配慮するとともに、歩道を拡張することでバス停も利用しやすい快適で安全な通行空間に整備します。



【歩道イメージ】



【憩い場のイメージ】

【周辺施設との関係】

2 施設計画

(1)施設構成

①階数の検討と方針決定

施設計画を作成するにあたり、まず1階建てと2階建てのどちらがよいかの検討をする中で、それぞれに次のような優位性が挙げられました。

【1階建て】

- ・建設コストが抑えられる。
- ・プールに大きく面した共用部と観覧席を1階に設けることができ、プールの雰囲気を感じやすい。
- ・広場に面して大きな共用部を設けることができ、広場とのつながりをつくりやすい。
- ・動線がシンプルでわかりやすい。

【2階建て】

- ・2階観覧席からプール全体を見渡しやすい。
- ・プール利用者と2階観覧者の距離が保て、プライバシーへの配慮がしやすい。
- ・2階も利用することで、1階には更衣室などのプール利用に必要なスペース、運営や維持管理に必要なスペースを確保しやすく、機能ごとに使いやすいゾーニング分けができる。
- ・1階建てに比べ、建築面積を抑えることができ、広場空間を大きく確保しやすい。

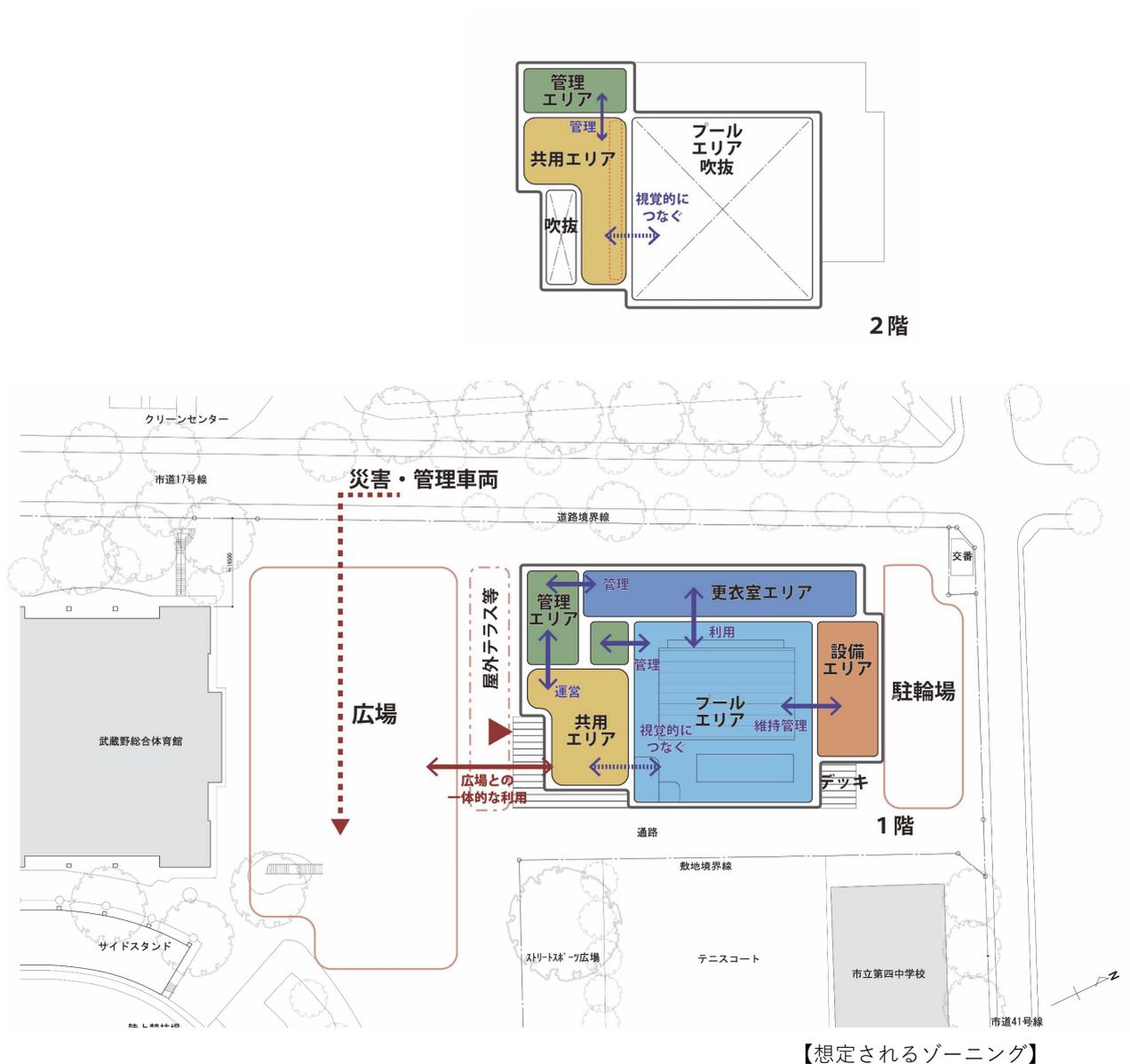
以上の優位性を比較した結果、本事業においては2階建て案を基本計画案として採用し、より詳細なゾーニングの概要を検討しました。

②ゾーニングの概要

プールエリアは安全確保と管理運営がしやすいよう、共用エリアと管理・設備エリアに隣接した位置に設けます。共用エリアは広場と連携しやすい位置に設け、交流スペースやラウンジにより気軽に立ち寄れる、市民のつながりを育む空間とします。プールエリアと隣接することで、プールの雰囲気を感じ、誰もが一度は利用してみたいと思えるような施設づくりを行います。また、観覧席からメインプールがコースごとに縦方向から見えるよう整備します。更衣室は1階に設け、利便性を向上します。

職員が常駐する管理エリアは建物の出入り口付近とプールエリアの監視やメンテナンスがしやすい位置に配置します。

設備エリアは職員のメンテナンスの容易さや施設規模に合わせた位置に設けます。



(2)導入機能と諸室規模の考え方

①プールエリア

1)25m メインプール

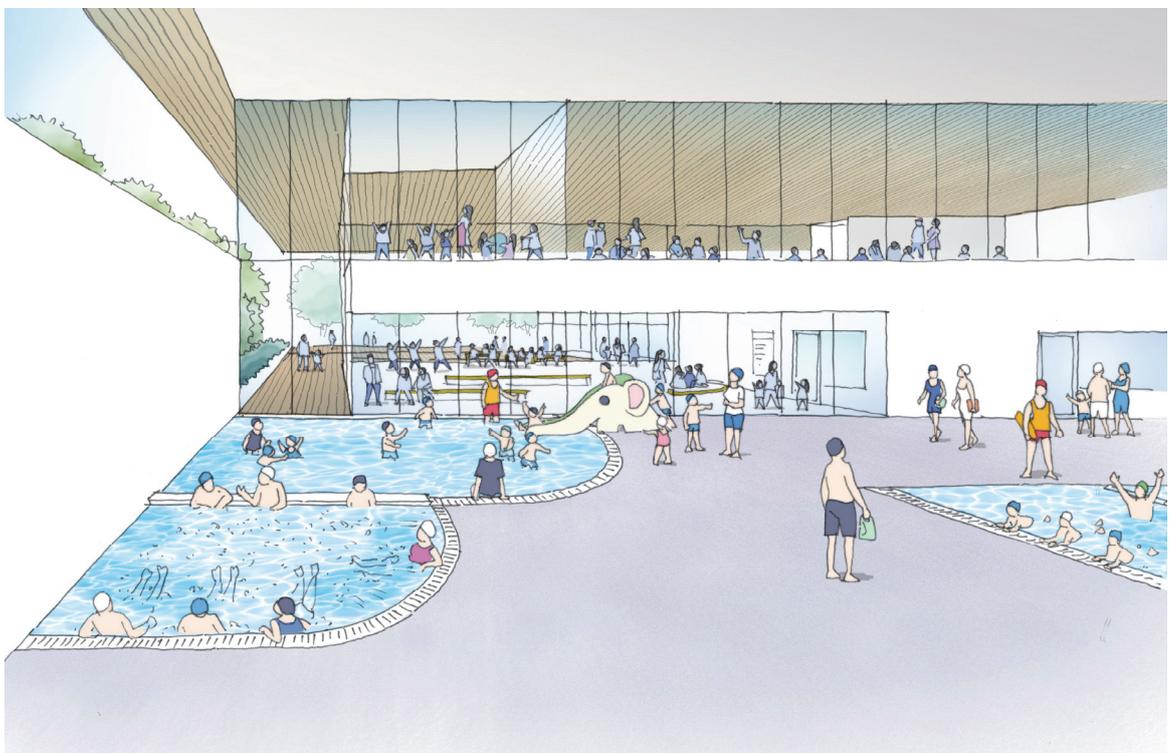
- ・コースは8コース以上とし、既存プールよりもコース数を増設します。
- ・可動床を採用し、水深は0.8～1.35mの範囲で調整できる仕様とします。
- ・(公財)日本水泳連盟プール公認規則にある25m国内公認競泳プールを満たす規格とします。
- ・飛び込み台の高さは、大会利用のタッチ板規格に合うものとします。
- ・高齢者や障害者等が使いやすいよう、入水用スロープや階段を設けます。

2)サブプール

- ・利用者の安全確保のため、主に子どもや高齢者等が利用するサブプールはメインプールから独立させます。
- ・プール初心者やウォーキングに対応できるように、水深は0.6～1.0mの範囲を想定します。

3)レクリエーションプール

- ・親子連れが楽しく利用できる幼児用プールと遊具を設置します。
- ・幼児用プールの水深は30～40cmの範囲を想定します。
- ・健康増進や採暖に利用できるジャグジーを設けます。



【レクリエーションプールイメージ】

4)更衣室

- ・男女だけでなく障害者をはじめ親子（家族）利用や LGBTQ への対応も可能な更衣室を1階に整備します。
- ・動線に配慮した位置にロッカー、洗面台、シャワー、トイレ等を整備します。
- ・利用者実績やガイドラインを参考に、更衣室全体で400㎡程度の大きさとし、既存プール更衣室以上の規模とします。



【更衣室参考写真】



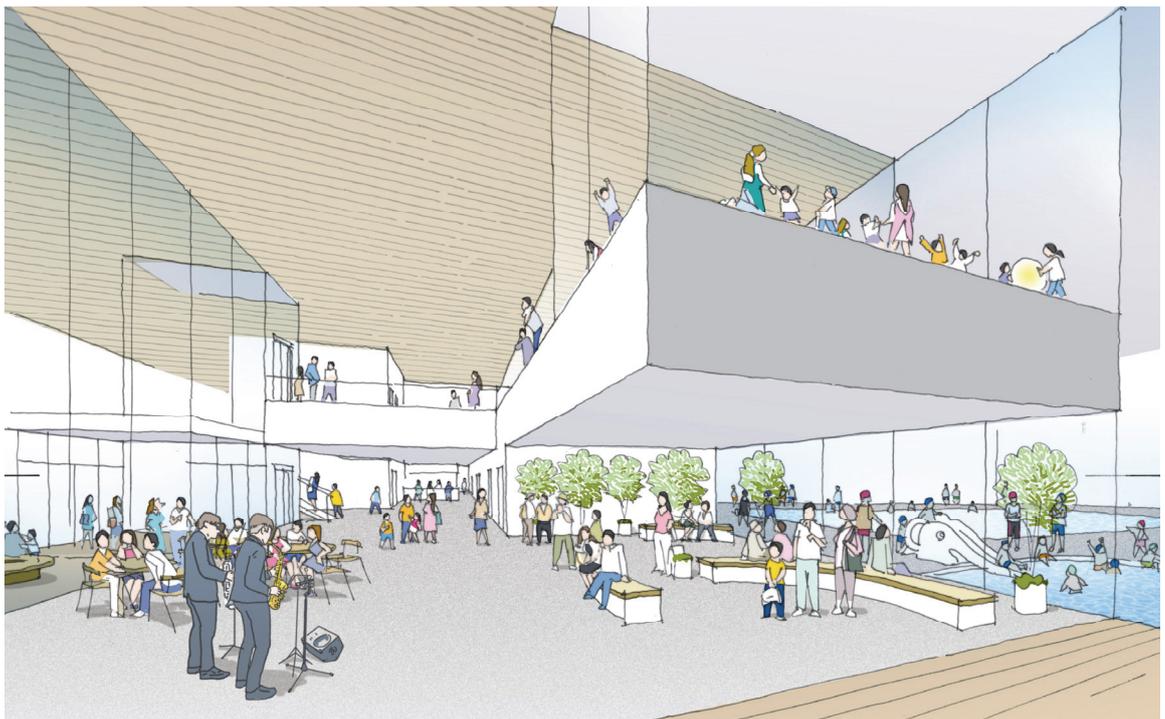
【トイレ参考写真】

5)プール関連諸室、スペース

- ・プールサイドは大会利用時に多人数でも対応できる十分なスペースを確保します。
- ・プールを見渡しやすい位置に監視室や救護室、医務室等を設け、迅速な対応ができるようにAED等必要備品も整備します。
- ・水泳後の動線に配慮した位置に、採暖できるスペースを設けます。

②共用エリア

1)エントランスホール・ラウンジ

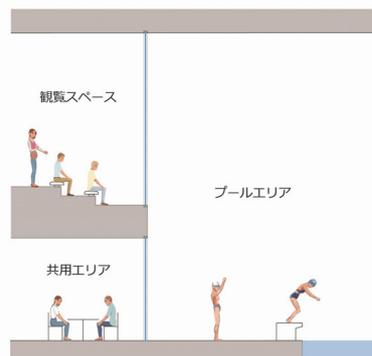


【エントランスホール・ラウンジイメージ】

- ・市民の憩いの場として利用できる規模とします。
- ・受付をする市民の待機列を想定したスペースを設けます。
- ・飲食可能エリアを設け、一般利用者も気軽に滞在できる場を設けます。
- ・広場と連携ができるスペース（屋外テラスやワイドオープンの扉等）を設けます。
- ・ラウンジから屋内プールを視覚的につなげ、ラウンジから広場やプールの雰囲気が感じられる工夫を行います。
- ・混雑状況がわかる工夫や設備を設け、快適で開放的なスペースを整備します。

2)観覧者エリア

- ・市民が観覧するエリアとして、遊泳中の利用者を見渡せる位置に設けます。(25m メインプールをコースごとに縦方向から見渡す配置を想定)
- ・300 席以上確保し、車いす利用や立ち見等の多様な利用者を想定します。
- ・待機中の幼児が利用できるキッズスペースを確保します。



【断面イメージ】

3)ユニバーサルデザインのトイレ

- ・共用エリア、プールエリアごとの利用者目線で、誰もが利用しやすいトイレを計画します。
- ・共用エリアでは、多種多様な利用が想定されるため、ユニバーサルベッドやオストメイトなどを備えた多目的なバリアフリートイレを設けます。
- ・キッズスペースに近接したトイレは、子ども用便器やベビーシート等親子で利用可能な設えとします。

③管理・設備エリア

1)受付・事務室・会議室

- ・施設の管理運営がしやすい室配置とします。
- ・受付はエントランスホールに面してできるだけ建物の出入口に近い位置とします。
- ・更衣室前にセキュリティゲートを設け、入退場管理や運営の容易化を図ります。
- ・事務室周辺には更衣室や給湯室、倉庫等を設けます。
- ・会議室や休憩室を設け、会議利用だけでなく盲導犬の預かりや大会時の控室等に利用できる室を設けます。

2)機械室・電気室等設備エリア

- ・地上階に管理エリアからアクセスしやすい設備室を設け、メンテナンスに配慮した配置とします。
- ・主要な設備類は極力高い位置に設けるなど、昨今の異常気象によるゲリラ豪雨による浸水対策や、災害発生によるインフラの途絶や被害の長期化に備えた防災機能を確保します。

第6章 整備の事業手法とスケジュール

1 整備の事業手法の検討

(1) 整備の事業手法の概要

市営プールの更新にあたっては、施設規模や機能に加えて、整備に要するコストや工期、将来的な維持管理・運営の効率性を見据えた事業手法の検討が不可欠です。

特に、総合体育館の大規模改修や関連公共施設の更新スケジュールとの整合を図りながら、財政負担の平準化や市民サービスの持続的な提供を可能とする方式を選択することが求められます。

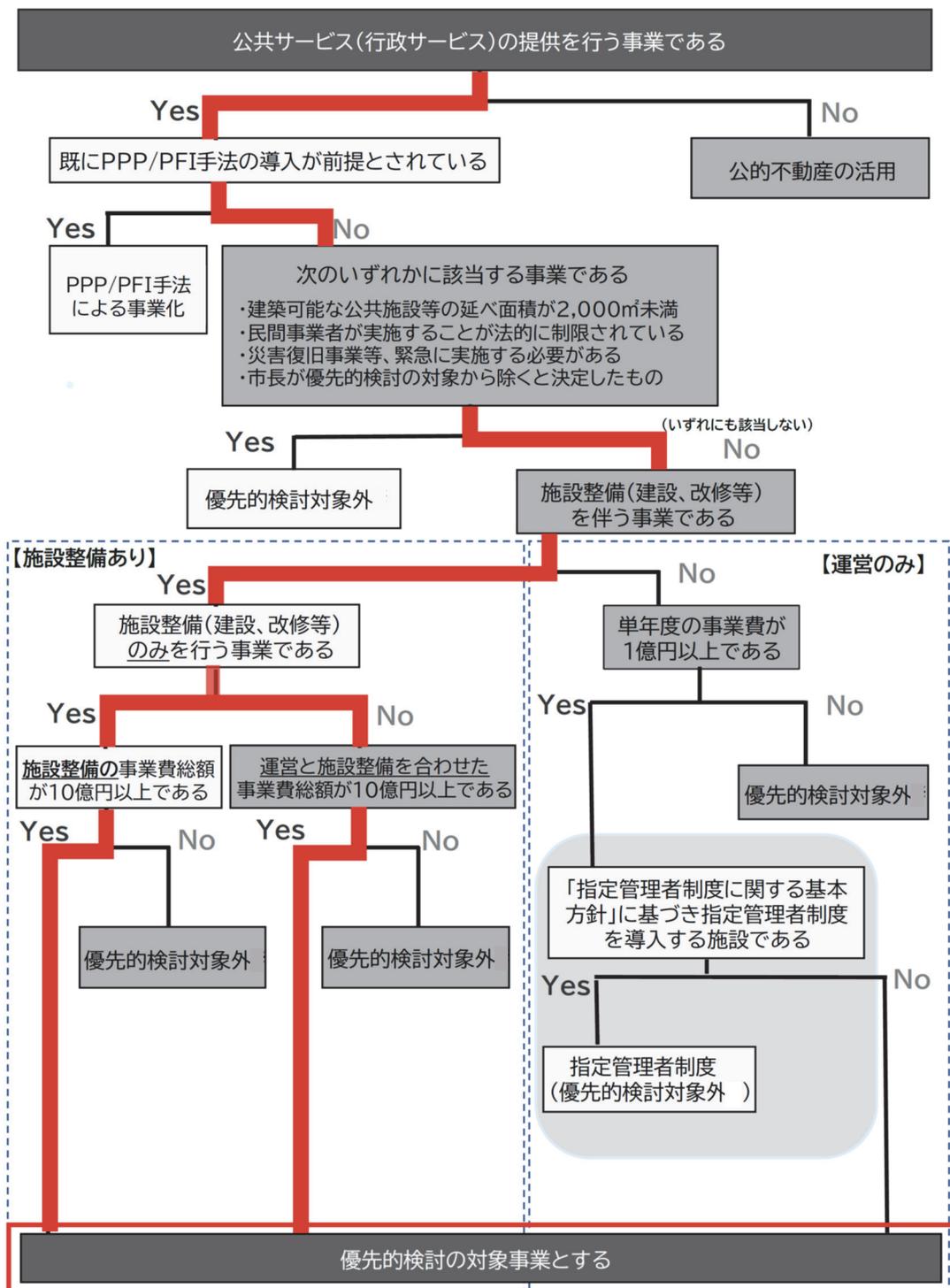
以下に、主な事業手法の概要と、それぞれのメリット・デメリットを整理します。

手法	特徴	メリット	デメリット	運営主体
従来方式 + 指定管理者	設計・施工は市が発注、完成後の運営を指定管理者に委託	<ul style="list-style-type: none"> 設計品質を担保しやすい 市の意向を反映しやすい 運営は民間のノウハウを活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> 建設費は市の財政負担が集中 工期短縮効果は限定的 	建設：市 運営：指定管理者(民間)
DB方式 + 指定管理者	設計・施工を一括発注し、運営は指定管理者に委託	<ul style="list-style-type: none"> 工期短縮が可能 コスト管理が一体化 運営は民間活用で効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 設計意図の反映が難しい 運営は別途契約が必要 	建設：民間 (DB) 運営：指定管理者(民間)
DBO方式	設計・施工・運営を一括で発注	<ul style="list-style-type: none"> 施設のライフサイクル全体で効率化 民間のノウハウ活用 市の負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 契約が複雑 長期契約で柔軟性が低下 	建設：民間 運営：民間
PFI方式 (BTO など)	民間が建設し、市に移転後、民間が運営	<ul style="list-style-type: none"> 初期投資を民間が担い財政負担平準化 民間の効率的運営 	<ul style="list-style-type: none"> 契約手続きが長期・複雑 事業採算性に左右される 	建設：民間 運営：民間
コンセッション方式(公共施設等運営権)	施設は市有、運営権を民間に設定	<ul style="list-style-type: none"> 市の財政負担を軽減 料金収入を民間活用に活用 サービス改善が期待 	<ul style="list-style-type: none"> 利用料金設定など公共性の担保が課題 長期契約リスク 	建設：市 or 民間 運営：民間 (運営権者)
リース方式 (民間建設借上方式)	民間が建設し、市が長期リースで借り受ける方式	<ul style="list-style-type: none"> 建設費を平準化できる 迅速な整備が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 総支払額は割高になりがち 契約スキームが複雑 	建設：民間 運営：一般的には市直営または指定管理者に委託

(2)「武蔵野市 PPP/PFI※手法導入優先的検討に関する要綱」に基づく事業手法の簡易な検討

本施設のような一定規模以上の整備事業においては、基本計画の策定と並行して「武蔵野市 PPP/PFI 手法導入優先的検討に関する要綱」に基づく簡易な検討を行い、PPP/PFI 手法の適用可能性について定性的な評価を行うこととされています。

※複数の業務をまとめ性能発注方式を採用することで、民間事業者等の技術・ノウハウを生かす手法



検討対象事業判定フロー

ア) 簡易な検討の概要

本事業における簡易な検討は、「武蔵野市 PPP/PFI 手法導入優先的検討に関する要綱」に基づき、従来方式に加えて PPP/PFI 手法の導入可能性を検討するものです。プール施設の建替えにあたっては、以下の前提や背景を踏まえ、定性的評価を行うことが必要とされます。

① 運営事業者

本施設の運営は、現施設と同様に指定管理者制度を用いて実施することを前提とする。このため、建設から運営までを包括的に民間に委ねる PFI 方式、DBO 方式、コンセッション方式は選択肢に含めない。

② 周辺事業との整合

市ではすでに、総合体育館の大規模改修や、市営プールと一体的に夏季の運用を行う市立第四中学校プールの改修（令和 12 年度予定）を位置付けており、エリア全体の整備方針は確定している。

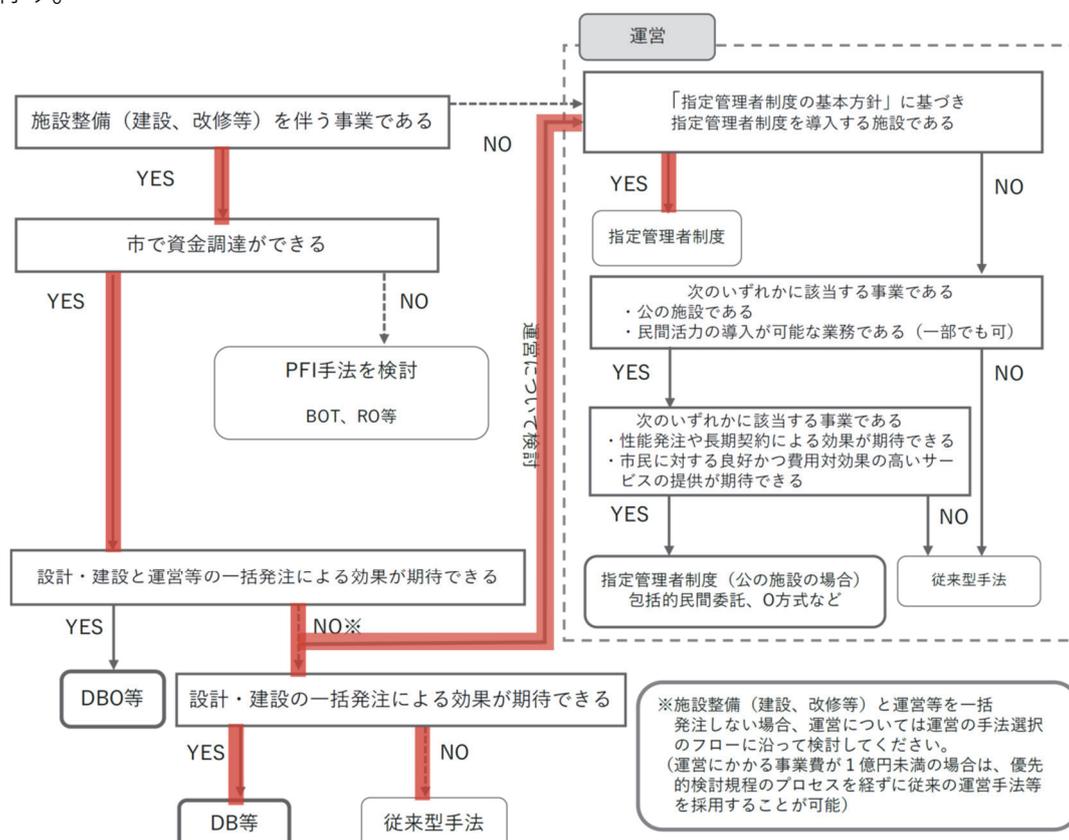
③ 事業スケジュール

市営プールは令和 10 年度に整備工事に着手し、令和 12 年度に供用開始する計画（令和 6 年度公共施設マネジメント庁内推進本部）であり、近隣施設との整合を図るうえで開始時期を後ろ倒しにできない。したがって、官民連携手法の検討にあたっては、供用開始時期に支障をきたさないことが前提条件となる。

④ 簡易な検討のフロー

候補手法としては、官民連携手法にあたる **DB 方式、リース方式（民間建設借上方式）** を対象とする。

これらの手法について、民間事業者への意見聴取（サウンディング）を実施し、定性的評価を行う。



PPP/PFI 手法選択のフロー

イ) 簡易な検討の評価

本事業における簡易な検討では、官民連携手法としてDB方式、リース方式（民間建設借上方式）を対象に、設計事業者及び事業者へのサウンディングを行いました。

市が現時点で想定している条件下での参画意向や、スケジュールの適合性、契約スキームの実現性等について意見を聴取しました。

その結果、いずれの方式においても、以下の課題が確認されました。

事業方式	主な意見
DB方式	<ul style="list-style-type: none">・基本計画が詳細に作りこまれており、設計者に残されている裁量や自由度が少ない。・仕様発注の形に近いため優位性が発揮できない。・提示された条件では、創意工夫の余地が小さいので、参画の意欲はわかない。・市民の意見を聞きながら設計に取り入れる武蔵野市のやり方はDB方式には合わないのではないかと。・市が示すスケジュールの時期は建築業界も人手不足のピークとなると思われる。・基本設計の段階で将来的な収支を見込んで金額を設定するのは難しい。・プールということ以外に特殊性は大きくないので、建築会社のノウハウは不要ではないか。
リース方式	<ul style="list-style-type: none">・市が示すスケジュールには対応可能かと思われるが、国や都の補助金を活用する場合には困難と考える。・財政の平準化はかなうものの、起債した場合に比べ金利分割高になることが懸念される。・運用を見越した設計ができない。・建築物を貸すだけのリース方式では利益が見込めない。

これらの意見を踏まえると、今回の整備計画の前提条件および供用開始時期の制約の下では、民間事業者によるDB方式やリース方式での積極的な参画意向は確認できませんでした。

以上より、本事業においては、従来方式（設計・施工分離発注）が妥当と判断しました。

2 事業スケジュール

本事業の整備スケジュールは、武蔵野総合体育館の大規模改修や学校プールの改修など周辺関連事業との整合を図りながら設定しています。特に、市民の利用が途切れる期間をできる限り短く抑えることを重視し、施設の休止期間を最小限とする計画としています。これにより、地域全体のスポーツ環境を維持しつつ、円滑に新施設への移行を行う計画としています。

	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度～
総合体育館 大規模改修		大規模改修工事				
市営プール 建替工事	基本 計画	基本 設計	実施 設計	解体 工事	建替 工事	
		市営プール休館期間				
第四中学校 プール 改修工事						改修工事

3 想定事業費

令和7年度時点で、本計画における想定事業費を税込み約46億円（概算工事費 約43.3億円、設計及び工事監理業務委託費 約2.5億円）と試算しています。なお、備品購入費、工事期間中の運営に係る費用などについては含んでいません。

※工事費は、プール施設という特殊性を鑑み、近年の温水プール類似施設の整備事例として、（一財）建設物価調査会の統計（温水プール施設新築モデルの単位面積当たりの単価）などをもとに算出。

昨今の建設資材の高騰の影響や建設労務費の上昇によって建設費が高騰していくことが見込まれることから、令和10年度時点における想定事業費を税込み約53億円（概算工事費 約50億円、設計及び工事監理業務委託費 約3億円）と試算しています。今後の動向に注視するとともにVE設計（バリュー・エンジニアリング）などコスト縮減を図りながら基本・実施設計を進めていくとともに、国や東京都の交付金活用を検討し、活用が見込まれる場合には、積極的に活用していきます。

※建設上昇率については、今後の建設費上昇率を年5%と見込み、本施設の建設工事着工予定である令和10年時点までの建設費上昇率を約16%として算出。

第7章 意見聴取(パブリックコメント)

1 意見聴取（パブリックコメント）実施の概要

本基本計画（案）について、市民の皆さまから幅広くご意見をいただくため、パブリックコメントを実施しました。

- ・ 募集期間 : 令和7年12月15日（月）～令和8年1月5日（月）
- ・ 提出方法 : 郵送、電子メール、ファックス、意見提出フォーム、または持参
- ・ 寄せられた意見数 : 43件

2 主な意見

本パブリックコメントでは、市営プールの更新に関して、さまざまな内容の意見が寄せられました。意見は、施設の規模や機能、利用の仕方、運営方法など、計画に関わる多岐にわたる事項に及んでいます。寄せられた意見については、その内容に応じて整理し、以下のとおり A～H の8つの分類に分けてまとめました。

主な意見については、内容の趣旨を踏まえて要約し、分類ごとに整理しています。次の第3節に、すべての意見とそれに対する市の対応方針を記載しています。

A | 計画の是非・前提

市営プール整備計画について、計画全体の方向性や前提、進め方そのものに対する意見が寄せられました。

計画の是非・前提	
1	猛暑が続く現状では屋外活動は危険なため、年間を通じて安全・快適に利用できる屋内施設を充実させるという計画案の方向性に賛成します。
2	プールの更新を機に、体育館や広場、周辺施設と一体となって回遊でき、防災拠点としても機能するような魅力的なまちづくりを期待します。
3	夏場の解放感や太陽光、風を感じられる武蔵野市ならではの貴重な環境を次世代の子どもに残せなくなることや、安全性や快適性が損なわれることなどから、屋外プールの廃止に反対します。
4	歴史ある屋外50mプールは市の誇れる資産であり、壊すのではなく存続や改修を含めた再検討を、実際の利用者の声を聴いて行ってほしい。
5	計画の周知が不十分でいつの間にか決まっている。パブリックコメント期間を延長し、もっと丁寧に議論し周知する機会を設けてほしい。

B | 競技利用

50m プールや長水路としての利用、競技水泳や大会開催を想定した、専門的な水泳利用に関する意見が見られました。

競技利用	
1	競技力の向上や公式大会の開催、外部団体への貸出による収益確保も視野に入れ、25mではなく「屋内 50m プール」の設置を再検討すべき。
2	学校のプール授業と市民利用、競技練習が同時に重なっても支障がないよう、メインプールのレーン数を十分に確保し広さを拡充してほしい。
3	本格的なスポーツに打ち込める環境として、公認規格の設備を整え、時間帯によって飛び込み練習ができるコースの設置なども積極的に検討していただきたい。

C | 健康・日常利用

健康維持や体力づくり、リハビリ、水中歩行など、日常的・継続的な利用を前提とした意見が多く寄せられました。

健康・日常利用	
1	高齢者が日常的に利用しやすいウォーキングコースの充実や、スロープ、手すりなどのバリアフリー設備を整備してほしい。
2	健康づくりに適した水温設定や、運動後にリラックスできるジャグジー、サウナ、採暖室などの多様な付帯設備の充実を望む。
3	建替えによる長期間の閉館は健康維持に影響するため、近隣の学校プールを代替施設とするなど、利用の中断を最小限にする工夫をしてほしい。
4	市内の遠方に住む市民にとって今の場所は負担が大きい。駅圏ごとのプール配置や学校プールの市民開放など、不公平感のない対策を望む。

D | 子ども・家族・レクリエーション利用

子どもの遊び場としての利用や、家族での利用、夏の居場所といった観点からの意見が寄せられました。

子ども・家族・レクリエーション利用	
1	子どもたちが水に親しみ豊かに育つよう、ウォータースライダーや流れるプールなど、遊びの要素を取り入れた魅力的な施設整備を期待している。
2	乳幼児から中学生までが安全に共存できるよう、年齢でエリアを分けたり、保護者が快適に見守れる観覧スペースを設けるなど親子に配慮してほしい。
3	おむつが外れていない乳幼児の利用、タライ遊びの場の確保や水質管理の工夫など、幅広い子どもたちが楽しめる環境を諦めないでほしい。
4	住んでいる場所や家庭環境に関わらず、全ての子どもたちが等しくスポーツ機会を得られるよう、バス路線の改善や民間プールの割引利用を検討してほしい。

E | 多様性・ユニバーサルデザイン

障害者や高齢者、性的多様性への配慮など、誰もが使いやすい施設とするための意見が集まりました。

多様性・ユニバーサルデザイン	
1	幼児から障害者まで誰もが安全に利用できるよう、水深を細かく調整できる可動式床の導入を評価し、多様なニーズに応える環境整備を望む。
2	ラウンジとプールをつなぐ開放感は魅力だが、利用者のプライバシー確保や落ち着いて泳げる環境とのバランスを安全管理の面から慎重に検討していただきたい。
3	性的多様性や障害者、家族連れなど、多様な市民が気兼ねなく利用できるよう、個室更衣室の設置やバリアフリーの徹底、清潔な衛生設備の整備を要望します。

F | 安心・安全

混雑時の危険性や事故防止、監視体制など、利用時の安心・安全に関する意見が寄せられました。

安心・安全	
1	屋内集約による夏場の混雑と事故リスクが心配。監視体制の強化や面積の十分な確保を第一に考えてほしい。
2	子どもから大人まで安全に共存できるよう、団体貸切の制限や泳ぎ方のマナー徹底、児童優先の時間帯設定など、ソフトとハード両面での運用の工夫を要望する。
3	安価なコストだけで業者を選ばず、水漏れや滑り対策など専門的なノウハウを持ち、長期間の安全と衛生を担保できる施工業者を選定してほしい。
4	観覧席や共用エリアからの盗撮防止や、最新の浄化システムによる水質管理など、全ての世代が心から安心して利用できる対策を徹底してほしい。

G | 付帯機能・快適性

ジャグジーや採暖室、サウナなどの付帯機能や、空間の開放感、居心地の良さに関する意見が見られました。

付帯機能・快適性	
1	今の屋内プールの天井の高さや光を生かし、夏場は風が抜ける開閉式天井や UV ガラスの壁面など、開放感と爽快感の両立させた設計を実現頂きたい。
2	維持管理コストを抑えるため、過度な意匠性よりも、エネルギー効率や清掃のしやすさを優先した、長期的に使い続けられる設計にすべき。
3	ジャグジーやサウナのほか、ドライヤー用コンセントの開放や駐車場の併設など、利用者の利便性に直結する細やかな設備改善を期待している。
4	可動床の導入にあたっては、流行に捉われず維持費や耐久性を十分に検証し、結論ありきではない慎重な検討と先行事例調査を行ってほしい。
5	広場や駐輪場の配置は、体育館やバス停との動線も考えて決めてください。不法駐輪が起きない、使い勝手のよい緑豊かな外構計画をお願いしたい。

H | 運営・料金・事業手法

使用料や受益者負担、市外利用者の扱い、指定管理者制度や教室運営など、運営・事業面に関する意見が寄せられました。

運営・料金・事業手法	
1	将来の税負担を抑えるため施設は簡素にしつつ、受益者負担の観点から市外利用者の料金を見直すなど、市民に優しい戦略的な経営を求める。
2	民間教室が減る中、公営プールが子どもたちの泳力習得や水難事故防止の拠点として、質の高い指導体制や水泳教室を継続・充実させてほしい。
3	シャンプー使用禁止ルールの見直しや、コースの営利貸出による収益化など、利用者の利便性向上と健全な運営を両立させるための運用をお願いしたい。
4	夏場の混雑緩和や身近な利用環境の整備として、四中に加え、他の市立学校プールの市民開放を検討し、誰もが気軽に泳げる体制を整えていただきたい。

3 意見内容と市の対応方針

本節では、寄せられた計 43 件の意見について、それぞれの意見に対する市の対応方針を示しています。

表では、各意見の内容に対する市の考え方および対応の方向性を記載するとともに、参考として、当該意見が第 2 節のどの分類（A～H）に該当するかを符号により示しています。

寄せられた意見の趣旨を踏まえ、今後の検討にあたって参考とするものです。

【分類凡例】

- A：計画の是非・前提
- B：競技利用
- C：健康・日常利用
- D：子ども・家族・レクリエーション利用
- E：多様性・ユニバーサルデザイン
- F：安心・安全
- G：付帯機能・快適性
- H：運営・料金・事業手法

No.	分類	ご意見 ※個人情報を除き、原則原文のまま記載 (明らかな誤字や脱字等と見受けられるものは一部修正)	市の対応方針
1	H A	全体的にお金はかけない方が良い。特にランニングコストは後々の負担になると思います。プール施設以外の施設があれば、なるべく簡素にするべき。	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
2	A	屋外プール廃止予定と知りました。なかなか近隣には屋外無く、毎年 7 月楽しみにしておりました。開放感や太陽の日差しを感じられる希少な施設かと思えます。 何とか継続可能にはならないでしょうか？	施設の老朽化に加え、近年、記録的な猛暑の常態化や集中豪雨、突発的な雷雨の増加など、屋外プールを取り巻く気象環境が大きく変化しており、利用者の安全確保や安定的な運営が課題となっていました。こうした状況を踏まえ、屋外プールの更新・廃止等については、本計画 2 ページに示すとおり、令和 3 年度から検討を進め、令和 6 年度に策定した「武蔵野市営プール整備方針」において、廃止する方針を示しています。 本基本計画では、武蔵野総合体育館を中心とするエリアの新たな賑わいの中心として広場を計画し、広場に面してプールを配置することで、誰もが立ち寄りやすい施設とすることを目指しております。併せまして、イベント時の関係車

			<p>両スペースや災害時の緊急車両スペースとしての活用も想定しております。</p> <p>プールの規模や配置、屋内プールのあり方については、回遊性や利用状況を踏まえ、今後の基本設計の中で総合的に検討してまいります。</p>	
3	-1	A	<p>現在外プールを廃止する計画が進んでいるとのことですが、まず、市民に対しての調査には何人が答えたのでしょうか？</p> <p>そして、その6割弱が、外のプールを廃止して中のプールの充実をとの結果が出たとありましたが、6割弱というのは75割強。ほとんど半分ということになります。</p> <p>そんなアンケート結果をもとに外プールをなくすという内容が進むこと自体決定が雑だと思います。</p>	<p>本基本計画2ページの「3 計画策定のプロセス」のとおり検討を重ねる中で、令和4年度の市民アンケートでは627名から、令和6年度の整備方針策定の際はパブリックコメントにて団体を含む26名からご意見をいただきました。</p>
	-2	F B C A	<p>実際に、現在の夏の気温の急激な上昇により50mの外プールがあることで、外中合わせても週末は利用者がごった返している状況です。現時点でも利用者の人数に対して監視員の目が届いていない、少ない状況で、尚且つ、人が溢れているのに、外プールをなくして、中に集約しようとしていることは、到底利用者のことを考えているとも思えませんし、専門家と言いますが、現状を知らない人がどのように計画できるのでしょうか？とても疑問です。</p> <p>中プールの充実とありましたが、計画のスケッチを見ると、25mプールの広さは8コース。現在50mプールと、25m7コースでさえ溢れかえっている人をどのようにたった25m8コースで「誰もが安全で安心して利用できるプール」となると言えるのでしょうか？全く理解できません。</p> <p>さらに現在中の子供用15mプールは、子供が少ない時は大人も泳ぐためにも利用できる設計になっていますが、新しい計画の幼児プールでは、子供がいない時間帯に大人が泳ぎに使用することができず、その点でもスペースが拡張どころか縮小されます。</p> <p>現状の夏の利用者数を考えると外の50mプールをなくすことは、利用人数とスペースの確保の点から言っても、安全面から言っても全く理解できません。</p> <p>さらに、中プールの拡張と言っても、1コースは</p>	<p>屋外プールについてはNo.2をご参照ください。安全性や快適性の確保についてはご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>

		ある程度では全く話になりません。	
-3	C A	<p>冬の利用者数と、夏の利用者数の差を考えると、夏しか使わないプールと煙たがられている外プールの存在は、冬の利用者が少ない時期は中プールのみにてきて経済的ですし、夏の利用者が増えている時期には安全な広さを確保するためにも、利用者が快適に広いプールで泳げるためにも、外プールを残すことが重要だと考えます。</p>	No.2 のとおり屋外プールは廃止する方針ですが、ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
-4	B D	<p>もし、外プールを壊し、中のプールで本当に安全に賄おうと思うのなら、夏のピーク時に合わせた設計を一年中使うプールにしないとイケません。</p> <p>課題的には、中プールを50mにする。もしくは、25m×12 コース以上。プラス子供用のプールも広くして、子供が少ない時間帯には大人や小学生中学年以上も水泳で使用できるような形にすること。それ以外に幼児プールを設置すること。などが必要になってくると思います。</p> <p>(幼児は必ず親と一緒にいる(離れないで一緒に遊ぶ)ので、子供用プールでも充分)</p>	屋内50mプールの想定はしておりませんが、本基本計画の27ページにあるとおり、メインプールと幼児プールのほかにサブプールを設置する計画です。
-5	G A	<p>夏の暑さは天井があることで防げるとお思いでしょうが、実際の体感としては外プールは猛暑でもとても涼しく快適で、中プールのは蒸し暑く、顔が火照るような状況で、むしろ熱中症になるような状況でした。</p> <p>そのため、もし中プールのみにするなら、天井を完全に開閉できる形にする。周りの窓は全てかけられるようにするなど、ほぼ外と同じように風が抜ける環境が作れる設計が必要です。</p> <p>現在の中プールの天井は高く、ガラス張りなので、泳いでいて開放感があり他のプールにはない気持ちよさがとてもあります。</p> <p>武蔵野市として誇れるような素晴らしい中プール壊すということも理解できませんが、もし新しくするのであれば、現在同様天井を高く設け、全てガラス張り(UV加工)で開閉ができ、風が通り、夏は外と同じような環境を作れる開放感のある外壁にして欲しいです。</p> <p>泳いでいて外や空が見えるのは本当に気持ちが良いです。</p> <p>環境に配慮するのであれば、泳ぐ人の気持ちにも配慮した開放感と気持ちよさのあるプールにして欲しいです。</p>	<p>換気・通風については建物配置や形状、開口部や設備を効果的に配置することにより確保できると考えております。</p> <p>プール室の天井は十分な高さを保ち、外装については、構造・法規・日射・景観・セキュリティ等を鑑み、環境に配慮したガラス配置を検討していきたいと考えております。</p>
-6	G F	ジャグジーは男女が距離を保って安全に使用できるような広さや作りの工夫をして欲しいです。	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
-7	G	現在体育館入り口には駐車場がありますが、プー	ご意見を踏まえ、基本設計・実施

		ル側にはないので、それも作って欲しいです。	設計を進めてまいります。
	-8	A 外のプールを無くしたり、素晴らしい中のプールを完全に壊して建て替えることにも反対。	No.2 をご参照ください。
	-9	F もしどうしても全てを建て替えるのであれば、広 G さと安全の確保。快適さを大事にした気持ちの良い設計を実現させて下さい。	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
	-10	C 建て替え中は代わりに 4 中のプールを利用できる H ように確保に努めていただけないと、健康維持が難しい状況です。 長期間プールが利用できなくなるのは本当に死活問題ですので、その点も真剣にお考えいただきたく思います。	ご意見を踏まえ、休場中の運用について検討を進めてまいります。
4		A 「市民の交流の場」や「周辺施設との一体的なまちづくり」について、特に賛同します。 D 国内公認競泳プールの規格もありつつ、乳幼児も楽しめる構造等幅広い利用者を想定している点も良いと思います。	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
5		C 老若男女、障害者有無にかかわらず、多くの市民 E が心身の健康を保つために、利用しやすい快適で F 安全なスペースとなることを希望します。	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
6	-1	G 採暖室とジャグジーが予定されているのはよい と思います。 ジャグジーが 10 人くらい座れるサイズで 40 度前後で稼働するのであれば採暖室はなくてもよいか と思います。	ジャグジーのサイズや温度は今後検討いたします。
	-2	G 交流の場として現在体育館と市民プールの間の A 通路と自転車置き場となっているところが広く使えるようになるのはよいと思います。	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
	-3	D 交流の場として中野四季の森公園のような不規則に水が出て遊べるような広場ができれば未就学 G 児の遊び場として武蔵野市の新しい遊び場スポットになりそう。	屋外空間の在り方については、子どもが水に親しめる場を確保することを引き続き検討してまいります。
	-4	G 2 階建てプール部分が吹抜で 2b 案がよい と思います。2a 案はプール部分の吹抜が広く開放的なイメージですが、2 階の共用部分が長く、端のほうまで使えないように思えます。 プール部分を広く吹抜にできたらいい と思います。 楽しみにしています。	ご意見を踏まえ、限られた敷地を無駄なく利用できるよう、基本設計・実施設計を進めてまいります。
7	-1	C 全体ゾーニングに関することだが、50m 屋外 A プールをなくしてしまうと、夏場（夏休み）の混雑 G がひどい状態になると考えられる。屋根付き 50m プールが不可能なら、25m の屋根付きプールをもう一つ作ってほしい。総合体育館とプール の間に広場を作る計画のようだが、これは、総合体育館	夏季の混雑については課題であると認識しております。本基本計画では、武蔵野総合体育館を中心とするエリアの新たな賑わいの中心として広場を計画し、広場に面してプールを配置することで、誰

		<p>の位置を変えないとすればプールを市道 41 号線側に動かすということ。それではプールと総合体育館側の回遊性は損なわれる。広場は市道 41 号線側に作って、25m プールをもう一つ作って欲しい。</p>	<p>もが立ち寄りやすい、年間を通じて利用できる施設とすることを目指しております。</p> <p>併せまして、イベント時の関係車両スペースや災害時の緊急車両スペースとしての活用も想定しております。プールの規模や配置、屋内プールのあり方については、回遊性や利用状況を踏まえ、今後の基本設計の中で総合的に検討してまいります。</p>	
	-2	F H	<p>また、施設に関する課題や、意見のところにもあるが、「団体貸切」による利用制限には大いに不満があるし、ルールやマナーで、「背泳ぎ」で前方を確認しない人たちがおり、時々ぶつかっている。</p> <p>子供が暴れ回る（例えば潜水など）のはやむを得ないとしても、安全マナーの徹底が必要。</p>	<p>利用時のマナー徹底については引き続き取り組んでまいります。</p>
	-3	C H	<p>私は「膝の痛み」が水中歩行でほぼ普通に治ったので是非 25m プールをもう一つ作ってほしい。そうすれば片方の工事をやっている間は、もう一つの方を使えば、なんとか凌げるのではないかな。</p>	<p>複数のプール施設を作ることは計画しておりませんが、休館時期をできる限り短くするよう、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>
8	-1	F D H	<p>資料 7 ページに言及されてありますが、現状夏季においては児童は主に屋外プールを利用して遊んでいる状況かと思えます。現在は屋外プール側で、屋内プールとは構造的にも一定程度分離されているため、市民の皆さまがそれぞれの利用目的に応じてある程度目的ごとにわかれて利用できているように見受けられます。</p> <p>一方で、今後、屋内プールだけの運用となり、児童の利用エリアが大人の遊泳レーンと近接する場合には、市民プールとして年齢や利用目的の異なる方々が同時かつエリア的にも近い場所で利用するという点からも、利用方法や安全面について一定の配慮が必要になる可能性があるのではないかと感じています。</p> <p>市民プールとして、児童から大人まで、すべての人が安心して利用できる環境を確保するという観点から、屋内プール中心の運用とする場合には、例えば児童優先の時間帯やエリアの設定など、運営面での工夫を検討していくことも一案かと思えます。児童に悪気はなくてもマナーを守るのが難しいこともありますし、それを織り込んだ上でソフト面ハード面からの目的ごとに区分をしっかりとすることが望ましいのではと思えます。</p>	<p>ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計及びマナーの向上を含めた運用面での検討を進めてまいります。</p>

	-2	D C	<p>また、屋内プール化することで需要の平準化を図るという点については理解できますが、現状の遊泳エリアは、どちらかといえば泳ぐことに主眼が置かれている印象もあります。一方で、児童にとっては、泳力向上に加えて、友達同士で水に親しむような遊びも大切な要素ではないかと思えます。鬼ごっこをしたり、横泳ぎをしたりなどもあるかと思えます。</p> <p>泳ぐことを目的とする利用者と、遊びながら水に親しむ児童の双方が共存できるよう、市民プールとしての公共性を踏まえた空間の使い方や運営方法を検討していくことが望ましいのではないかと思えます。</p>	<p>屋内プールは、泳力向上に加え、子どもが遊びながら水に親しむ場としての役割も重要と認識しています。泳力向上のための利用と遊びの利用が共存できるよう、空間の使い分けや運営方法について、今後検討してまいります。</p>
9	-1	E C F	<p>本計画案において、市民の健康促進や生涯スポーツの推進、多世代に開かれた公共施設としての方向性が丁寧に示されており、大変意義深い取り組みと受け止めております。特に、水深を調整できる可動式床が導入される予定である点は、幼児・低学年の児童から高齢者・障がいのある方まで、誰もが安全かつ安心して利用できる環境として高く評価いたします。</p>	<p>可動床の導入などにより、多目的かつ効率的に利用できる方策を今後の基本設計・実施設計の中で検討してまいります。</p>
	-2	B A H	<p>一方で、プールの規模については現時点で 25m プールが想定されているようですが、50m プールの導入をぜひ再検討いただきたく存じます。</p> <p>50m プールの設置は、競技用という位置づけにとどまらず、以下のような多面的な価値をもたらすと考えます：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数のコースに分けることで、子どもから大人まで同時に安全かつ効率的に利用できる ・学校・地域主催の大会やスポーツイベントの開催が可能となり、地域交流・経済効果も見込める ・スイミングスクールの閉鎖に伴う代替施設として、地域の水泳・運動機会を支えることができる ・本格的な環境があることで、子どもたちに目標や挑戦心を芽生えさせ、夢を育む土壌になる <p>また、一般開放と団体利用、教室やイベントなどが共存できる柔軟な設計・運用が実現すれば、世代や立場を超えた市民同士の交流・ふれ合いの場として、プールが「地域の絆を育む拠点」として機能することも大いに期待できます。</p> <p>公共施設は、その瞬間の需要に応えるだけでなく、未来を見据えた価値ある投資でもあります。武蔵野市のまちづくり理念と連動した、持続可能かつ開かれたプール運営を、ぜひお願い申し上げます。</p>	<p>50m プールの想定はしておりませんが、更新後の施設ではレーン数の確保や可動床の導入などにより、現施設で不足している機能を実現し、多目的且つ効率的に使用できる方策を今後の基本設計・実施設計の中で検討してまいります。</p>

			※地域で子ども支援とスポーツ教育に取り組む立場から、こうした観点での意見を述べさせていただきます。	
10	-1	B H	25M プールは 10 レーン以上がよいと思います。学校のプールの維持再建を考えたとき莫大な経費もかかる。この施設で複数校の水泳指導の授業も、市民利用も同時に行えるような規模がよいと思います。	市立小中学校のプールについては、武蔵野市学校施設整備基本計画において各学校の改築に合わせて検討していくこととしております。 ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
	-2	G	敷地にかなり余裕ができるので送迎用のバス 2 台くらいの駐車場併設もできるとよい。現在体育施設にバス駐車スペースがないため。	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
11	-1	A	屋外プールを廃止することに賛成します。夏の気温が高すぎて、市立小学校のプールの授業もままならない現状では、屋外プールを設置しても使用可能な日数が限られます。屋内のプール・施設を充実させる方が理にかなっています。	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
	-2	H	「利用料が 10 円はありがたい」との意見もありますが、ランニングコストも税金で賄われているので、ある程度の受益者負担は当然だと考えます。利用料は 1 回 100 円以上を基本とし、年間パス、幼児・高齢者・障がい者等のための割引を設け、夏の混雑緩和のためにも、市外の方の利用料を思い切って高くすることも必要だと考えます。	施設の使用料については、受益者負担割合等を考慮し、検討いたします。
12	-1	H F	設備使用のルールについて メイクを落としてプールに入るように促されていると思いますが、その割にシャワー室でのシャンプーや石鹸の使用禁止となっています。矛盾しています。メイク落としと肌のケアに関わる部分はむしろ推奨して欲しい。	現状、プール使用後はほぼ全ての方がシャワーを利用されるため、長時間利用による混雑を避けるべくシャンプーや石鹸の使用を禁止しております。 ご意見を踏まえ、運用について検討を進めてまいります。
	-2	G	ドライヤーが現状大変使いづらい。 持参したドライヤーも使えるようにコンセントを解放して欲しい。	ご意見を踏まえ、運用を検討してまいります。
13	-1	C F	市民プール改築計画について、日頃の利用者の立場から意見を提出いたします。 まず、屋内プールのレーン増設については、多くの利用者にとって利便性が高まり、混雑緩和や安全性の向上につながる良い計画であると感じております。特に一般利用や水泳教室の時間帯において、レーン数の不足を感じるが多いため、前向きに評価したい点です。	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
	-2	F E	一方で、ラウンジから屋内プールを視覚的につなげ、広場やプールの雰囲気を感じられるようにす	ラウンジとプールの関係性については、施設の一体感を高める一

		G	<p>るという案については、いくつか懸念があります。</p> <p>具体的には、プール利用者のプライバシーや落ち着いて泳ぎたい方への配慮、またガラス面の増加による安全管理や維持管理面での負担が生じないかという点です。特に子どもや高齢者の利用が多い施設であることを踏まえると、開放感と同時に安心して利用できる空間づくりが重要だと考えます。</p> <p>ラウンジの快適性や施設全体の一体感を高める工夫は大切だと思いますが、視覚的なつながりの度合いについては、利用者の多様なニーズを考慮し、慎重にご検討いただければ幸いです。</p>	<p>方で、利用者のプライバシーや安全性、維持管理面への配慮が不可欠と認識しております。開放性を一律に高めるのではなく、見通しの確保方法や空間の距離感などの工夫によりプライバシーを確保し、誰もが安心して利用できる環境となるよう、検討してまいります。</p>
14		G	<p>プールと併設する形で、焼却熱を利用とした岩盤浴やスーパー銭湯を作ること、体育館や競技場を利用した後の体を労る施設を作って欲しい。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>
15	-1	A D	<p>屋外プールを残して、小さい子ども利用しやすいようにしてほしい。屋内プールだけでは夏場混雑する。</p>	<p>屋外プールについてはNo.2をご参照ください。屋内に幼児用プールを設置し、屋外に子どもが水に親しめる場を確保することを引き続き検討してまいります。</p>
	-2	D	<p>オムツありの子ども入れる小さなプールとスライダーつけて欲しい。</p>	<p>おむつ着用（プール、水遊び用も含め）でのご利用については、保健所の指導のもと、水質管理のために一律にお断りしております。ご意見を保健所とも共有し、対応策について検討してまいります。</p>
16	-1	A	<p>武蔵野市民プールは、長年にわたり多くの市民に利用され、特に夏季においては安全に涼をとり、健康づくりや交流の場として重要な役割を果たしてきました。</p> <p>本計画案に示されている方向性について、屋外50mプールの廃止を前提とする点に、強い懸念を抱いており、以下のとおり意見を述べます。</p>	<p>No.2をご参照ください。</p>
	-2	F C A	<p>□夏季の利用実態から見た安全性・快適性への重大な懸念（第2章「現状と課題」）</p> <p>夏の週末や繁忙期においては、現在でも屋外50mプールと屋内プールを併用することで、ようやく多くの利用者を安全かつ円滑に受け止めている状況だと感じています。</p> <p>監視体制や導線、混雑状況を見ても、現行施設はすでに夏季利用の上限に近い状態で運用されているのが実態ではないでしょうか。</p> <p>その中で屋外50mプールを廃止した場合、たとえ屋内プールを拡張したとしても、夏季の利用集</p>	<p>屋内50mプールの整備は想定しておりませんが、屋外50mプール廃止後の夏季利用を見据え、利用状況や動線、監視体制を踏まえた安全性の確保について検討してまいります。あわせて、レーン数の確保や可動床（昇降床）の採用など、運用面も含めた対応策を今後の基本設計の中で検討してまいります。</p>

		<p>中を安全かつ快適に吸収できるのか、極めて疑問があります。</p> <p>利用者の滞留、過密状態、事故リスクの増加といった点について、より現場感覚に即した検証が必要だと考えます。</p>	
-3	A H	<p>□季節変動を無視した施設規模設定への懸念(第2章・第4章)</p> <p>夏の最盛期と冬の平日の利用者数には、大きな開きがあります。</p> <p>現在の「夏は屋外+屋内、冬は屋内中心」という運用形態は、この季節差を前提とした非常に合理的な仕組みであり、結果として運営コストや人員配置の面でも効率的であると感じています。もし夏のピーク需要に合わせて屋内プールを大規模化すれば、冬季の維持管理費やエネルギーコストが過大となる可能性があります。一方で、屋内規模を抑えれば、酷暑期の需要増に対応できません。この矛盾を解消してきたのが、屋外プールの存在そのものであり、屋外50mプールを失うことは、年間を通した施設運営のバランスを大きく崩す恐れがあります。</p>	<p>屋外プールについては No.2 をご参照ください。</p> <p>安全性や快適性の確保についてはご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。運営コストについては、使用エネルギーの抑制や省エネ・創エネ対策、クリーンセンター熱源の利用等、環境に配慮し、費用を削減できるよう基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>
-4	A G	<p>□猛暑化する気候における屋外プールの公共的価値(第2章)</p> <p>近年の夏は、外出や運動そのものが危険と感じられる日が増えています。そのような中で、屋外プールは、子どもから高齢者までが比較的安全に身体を動かし、涼をとることのできる、極めて貴重な公共施設です。屋内プールであっても蒸し暑さを感じる日が多い現状を考えると、屋外プールの開放性や通風性は、単なる「付加的機能」ではなく、安全・快適性を支える重要な要素であると考えます。猛暑が常態化する今後において、屋外プールの価値はむしろ高まっていくのではないのでしょうか。</p>	<p>屋外プールについては No.2 をご参照ください。</p> <p>屋外の要素を取り入れた施設とすることを検討いたします。</p>
-5	A H	<p>□屋外50mプール廃止を前提としない再検討の要望(第1章・第4章)</p> <p>現在の武蔵野市民プールは、広々とした屋外50mプールと、天井が高く自然光を多く取り入れた開放感のある屋内プールを併せ持つ、他市には例の少ない魅力的な施設です。</p> <p>耐震性や老朽化への対応が重要であることは理解しておりますが、屋外50mプールの廃止を前提とするのではなく、存続・改修を含めた選択肢を改めて検討していただきたいと強く要望します。全面的な建て替えによって長期間利用できなくな</p>	<p>屋外プールについては No.2 をご参照ください。</p> <p>安全性や快適性の確保についてはご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>

			<p>ることは、市民生活への影響も非常に大きいため、段階的改修や機能更新など、柔軟な整備手法についても再考をお願いしたいと思います。</p>	
17		A G	<p>小学生 2 人幼児 1 人がいる市民です。夏季の屋外プールが大好きで毎年利用しており、継続を希望します。屋外プールの現在のスタンド部分に日除けがあると助かります。夏季以外は屋内プールは空いているので今のサイズで十分です。</p>	No.2 をご参照ください。
18	-1	A B	<p>現在の武蔵野市市営プールは、50mプール、屋内25mプール、子ども用プールを併設した構成となっており、市民利用と競技利用の双方に対応できる、非常に価値の高い公共スポーツ施設であると認識しております。特に、市営施設として50mプールを有している点は、近隣市区と比較しても大きな特長であり、市のスポーツ環境における重要な資産であると考えます。</p>	ご意見として承ります。
	-2	B	<p>基本計画(案)では、25mプールを主とした構成が示されており、現行施設が持つ50mプールの機能や価値が後退してしまうのではないかと懸念を抱いております。25mプールは一般利用において重要である一方、競技利用、公式規格での大会開催、学校・団体利用といった観点においては、50mプールが持つ機能的価値は代替できません。50mプールは、競技力向上に資するのみならず、市外からの利用者や大会参加者を呼び込む力を持ち、市の交流人口の増加や地域活性化にも寄与する施設であると考えます。</p>	No.9-2 をご参照ください。
	-3	A C F	<p>プールの室内化については、健康面や安全性、年間を通じた安定的な利用環境の確保という観点から賛成です。</p>	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
	-4	H G	<p>計画案に示されているようなガラス面を多く取り入れた設計については、慎重な再検討が必要であると考えます。</p> <p>特にプール空間における大きなガラス面は、外気温の影響を受けやすく、夏季・冬季を通じて温度管理が難しくなることに加え、高湿度環境下での結露対策や空調・除湿負荷の増大が避けられません。これらは結果として、施設のランニングコスト増加や維持管理負担の増大につながるおそれがあります。近年のエネルギー価格の高騰や、建設資材費の上昇を踏まえると、更新後の施設においては、意匠性を重視するあまり、運営面で過度な負担を抱えることは避けるべきであり、外観デザインよりも、長期的な維持管理のしやすさとエネルギー効率を優先した設計が、市営施設として相</p>	No.3-5 をご参照ください。

		応しいと考えます。	
-5	B H	50mプールを更新・維持・活用することにより、競技大会の開催や外部団体への貸出など、一定の収益確保が可能となります。これは、市の財政負担を抑えつつ施設価値を高める有効な手段であり、25mプールのみでの構成では得られにくい利点です。その意味においても、50mプールは「維持費がかかる施設」ではなく、「活用次第で市に利益をもたらす資産」として位置づけるべきと考えます。	市営プールは市民のスポーツ、健康増進やレクリエーション活動の拠点であると認識しております。競技大会の開催や外部団体への貸出しにより収益が確保できたとしても、市民の通常利用の機会を減ずることになると考えられるため、積極的に推進することは検討しておりません。
-6	E B G	デザインパス（P.21）に見られるバリアフリー対応スロープについても、常設とするのではなく、必要に応じて設置可能な備品対応とすることで、プールの横方向利用を妨げない、柔軟な運用が可能になると考えます。50mプールの利点を最大限に活かすためにも、固定的な設計より可変性を重視した計画が望まれます。 総じて、本計画においては、現行施設が持つ50mプールという大きな資産を縮小するのではなく、将来にわたり市の強みとして継承・発展させること、そして、ガラス面を多用した意匠重視の設計ではなく、持続可能な維持管理を見据えた堅実な施設計画とすることを強く求めます。 シンプルでありながら、50m・25m・子ども用プールを併設した構成こそが、将来にわたり市民に愛され、使いやすい市営プールになると考えます。	屋内50mプールの整備は想定しておりませんが、ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
19	A	屋外プールの保存または建て替えを希望します。	No.2をご参照ください。
20	A C D	第4章の2「施設整備の方針」について、屋外プールの継続を希望します。 理由は、今計画のプールの規模だと、夏場に集中するプール利用者数(特に幼児や小中学生)への対応がむずかしいと思われるためです。 公立校ではプール授業が少なく、夏休みのプール開放もなく、世の中的には公立校のプールを廃止する動きもあることから、今後市民プールがより重要になる可能性があります。 また、泳げる海も川も近くにない地域なので、屋外で水に入れるという爽快感を味わえる場所は大切です。 スライダーや噴水など贅沢な設備は民間のプールにお任せしてでも、シンプルに屋外でプールを楽しむ設備は残してほしいです。	No.2のとおり屋外プールは廃止する方針ですが、屋外の要素を取り入れた施設とすることを検討いたします。
21	-1 A C B	・プール再建におけるプールの広さについて 以前、武蔵野市民プールの監視員として働いていた経験などから意見したく存じます。	屋外プールについてはNo.2をご参照ください。 屋内50mプールの整備は想定し

		<p>資料にもある通り、7月から9月にかけて外プールが開く関係上利用者が急激に増加するということと、検討にある屋内25mプールの設置という案に沿って再建していくことに非常に大きなギャップを感じます。</p> <p>外プールの開場期間、特に学校の夏休み期間は現状の50mプールの開放があっても体感として大変な混雑・窮屈さを感じるような状況でした。そうした状況にもかかわらず、近年の利用者数の推移として人数が急減しているわけでもないのに、単純に原案の25mプールと幼児プールのみ再建して、50mプールのキャパシティを無くしてしまうというのは、現場を全く理解していない、これからの市民が望むようなプールのあり方や市民への貢献度を無視した別の制約によって、机上の空論で考えられた結論ありきの案に過ぎないと感じてしまいました。</p> <p>これまでのような利用者数が、夏場の屋内プールだけに集中したらどうなるか、考えただけでも事故を積極的に起こしたいと計画しているとしか考えられませんし、入場制限をすればいいと計画案にも安易に書いていますが、繁忙期でも利用したい時にいつでも利用することが出来ない施設に何の利用価値があるのでしょうか？</p> <p>外プールの安全性や運営上の問題などについては同意見ですが、利用者数等の実態を踏まえれば、屋内50mプールの設置など、プール自体のキャパシティを大きくするような改修をお願いしたいです。</p> <p>また、近年ではこの事例と同様、老朽化によって閉ざされるプールが増加していますがそうした事案の受け皿となるように計画案を策定する方法は考えられないのでしょうか？</p>	<p>ておりませんが、夏季利用の集中や安全確保を踏まえ、レーン数の確保や可動床（昇降床）の採用、運用方法の工夫などにより、利用の分散と安全性向上を図る方策を検討してまいります。</p>
-2	H B	<p>夏場を過ぎれば利用者数は減少しますが、別途費用を払ってインストラクターに水泳を習いたい需要は昔に比べて増えていると感じますし、そうした需要は夏場だけのものではないと感じます。そうした需要を50mプールの一部コースを営利団体への貸出コースにしながらか適切に利用料を徴収することで、再建にかかるコストだけではない、将来の収入も見越せるような計画づくりをお願いしたいです。</p>	<p>屋内50mプールの整備は想定しておりませんが、ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>
-3	F H	<p>・プールの建設業者について</p> <p>昨今、近隣の自治体でもプール再建の例が見られますが、その際に建築コストの安さだけで引受業</p>	<p>プール整備においては、建設コストのみを重視するのではなく、安全性や排水計画、維持管理のしや</p>

		<p>者を選定した結果、施設開設直後に重大事故が発生し、一時閉館に追い込まれるという例を見ました。</p> <p>実際にそのプールは見てくれは新しいものの、プール建築のノウハウが足りていなかったようで、プールの至る所に水溜りが出来ていて、その水溜りで滑って転んだ利用者が事故に巻き込まれたとのことでした。</p> <p>プールの建設は、通常の建築物とは違い水の流れる傾斜や排水計画を綿密に行う必要があります。それを考慮しないで予算の安い業者だからという理由のみで建設業者を選定すると、施設の至る所に水溜りができ、その部分にカビが生え、事故が起こりやすく不衛生な設備となりやすいです。</p> <p>その水溜りをカップで排水に棄てたり、カビを清掃するのは監視員が行うわけですが、そういったことに気を取られて監視が行き届かず、プール内で重大事故が発生してしまっは元も子もないですし、建設時は良くてもランニングコストが高つく施設になってしまっは本末転倒かと思っます。</p> <p>監視不全に陥って、近所の民間スポーツジムのように不幸な事故が発生しやすい施設づくりを看過出来なは私だけではないと思っます。</p> <p>予算だけではない、安全性や快適さ・利便性・清潔さ等を担保できるような業者選びをお願ひしたく存じまっす。</p>	<p>すさを含めた総合的な品質確保が重要であると認識しておっります。</p> <p>今後は、必要な機能を整理したうえで、規模・機能・設備・コストを段階的に検討し、環境配慮や建設費高騰も踏まえながら、安全で快適かつ維持管理性の高い施設となるよう進めてまっります。</p>
22	A G	<p>外のプールが大好きです！</p> <p>夏に友だちと行くのを楽しみにしてまっります。なくさないでください。</p> <p>中のプールもすきです。</p> <p>ジャグジーだけ作ってください。お願ひしまっす。</p>	<p>No.2 のとおり屋外プールは廃止する方針ですが、屋外の要素を取り入れた施設とすることを検討いたしまっす。</p>
23	D C A	<p>市民プールは、子供が小さい頃よく一緒に行った思い出が有っります。</p> <p>今は娘が孫と利用してまっります。そのような大切な外のプールを取り壊すということを知りました。壊すのは簡単です。でも、作るのはもう不可能でしょう。昔からたくさんの方が愛用してまっる外のプールを取り壊すことを簡単に決めないでください。</p> <p>老朽化なら、また新しく外に 50m プールを作ってください。外だから広い空が見え、風が吹き、厳しい暑さの夏でも市内で唯一快適に過ごせる貴重な施設です。クーラーの効いた室内とは訳が違っます。</p>	<p>屋外プールについては No.2 をご参照ください。</p> <p>安全性や快適性の確保についてはご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまっります。</p> <p>屋外空間の在り方については、子どもが水に親しめる場を確保することを引き続き検討してまっります。</p> <p>建替えについては、本基本計画 6 ページにあるとおり、バリアフリー対応や衛生環境、防災性、省エネルギー性能などを鑑みて実施す</p>

		<p>そのような実際の利用者の声を理解していただきたい。武蔵野市の貴重な財産をなくさないでください。</p> <p>市の判断を信じております。</p>	<p>ることといたしました。</p>
24	A D	<p>市民プールは、子供が小さい頃よく一緒に行った思い出があります。</p> <p>今は娘が孫と利用しています。そのような大切な外のプールを取り壊すということを聞きました。壊すのは簡単です。でも、作るのもう不可能でしょう。昔からたくさんの方が愛用している外のプールを取り壊すことを簡単に決めないでください。</p> <p>老朽化なら、また新しく外に 50m プールを作ってください。外だから広い空が見え、風が吹き、厳しい暑さの夏でも市内で唯一快適に過ごせる貴重な施設です。クーラーの効いた室内とは訳が違います。</p> <p>そのような実際の利用者の声を理解していただきたい。武蔵野市の貴重な財産をなくさないでください。</p> <p>市の判断を信じております。</p>	<p>No.2 をご参照ください。</p>
25	-1	<p>A C</p> <p>小さい頃に良く利用した武蔵野市のプールが好きで、今も利用させてもらっています。</p> <p>この度外のプールが取り壊されるという話を聞きました。</p> <p>近年夏の気温の異常上昇により、出歩くのも危険な中、家に閉じ籠るしかない日々に変え、暑さを感じています。そんな折、武蔵野市の外のプールを思い出して利用しました。</p> <p>水に入り、風に吹かれると暑さを忘れるほどの爽快感で、本当に救われました。</p> <p>クーラーの効いた室内にいても身体がだるくなりますし、室内プールも使用しますが、やはり熱がこもってしまい、あのような気持ちよさは味わえません。</p> <p>どうか外のプールを取り壊さずに残してください。これからますます暑さが増す中、都会にいながらの避暑利用として大変有効だと思います。</p> <p>また中のプールも築年数を考えてもまだ綺麗で、手入れをしながら使っていけるとてもいいプールだと思います。</p> <p>耐震などの安全性を高め、開放感のある設計は壊さずに大切にしてほしいです。</p>	<p>No.2 のとおり屋外プールは廃止する方針ですが、屋外の要素を取り入れた施設とすることを検討いたします。建替えについては、本基本計画 6 ページにあるとおり、バリアフリー対応や衛生環境、防災性、省エネルギー性能などを鑑みて実施することといたしました。</p>
	-2	<p>G D</p> <p>プール内部のタイルもなかなか美しく、白なので、泳いでいて視界が明るいです。(天井がたかく、</p>	<p>ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>

			<p>自然光が入ることも理由かと)</p> <p>一般的に多いブルーやグレーの塗り床はすこし暗く、泳いでいて不気味に感じることもあります。</p> <p>またタイルであることで目地があり滑らないのもとても泳ぎやすいです。</p> <p>15m の子供用プールも夜など子供のいない時間帯は大人の遊泳にも使えてとても有効です。</p> <p>月や雲の流れを見ながら泳げる室内プールは他にはありません。とても素敵ですので、安全と清潔を保ちながら是非とも利用を続けさせてもらえたらと思います。</p> <p>新しいプールはいつでもできます。他の街には真似出来ない武蔵野市の誇るべき素晴らしい施設だと感じています。</p> <p>ご検討ください。</p>	
26	-1	A	<p>計画案を拝見いたしました。単なる施設建替案にならず、まちづくりを含めた総合的視点からの建替案として素晴らしく思います。</p> <p>また今回も含めて多数に渡り市民の意見を募集して下さることから、市長および市役所皆様の"市民と一体となって進めていく"とされる姿には、深く感謝申し上げますと共に、一市民として責任を持ってこの計画を考えて参りたいと思う次第です。</p>	<p>ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>
	-2	H D F	<p>それでは、武蔵野市民プールの建て替え計画に関し、今後の施設整備および運営方針について意見を述べさせていただきます。</p> <p>計画案の中では指定管理、という文言の箇所について。また施設の運営方法についての意見となります。</p> <p>近年、武蔵野市および近隣地域において、民間水泳教室の閉鎖や、プール施設の老朽化・安全上の問題による事業停止が相次いでいます。現存する水泳教室においても、施設更新の困難さから将来的な事業継続が不透明となっている事例が見受けられます。これは、地域における水泳教育・水辺の安全教育の提供体制が、構造的に脆弱化していることを示していると考えます。</p> <p>水泳は、市民の健康増進に資する運動であると同時に、特に子どもにとっては水難事故防止に直結する重要な基礎的体育です。水辺環境に近い都市構造や、学校教育・課外活動を取り巻く現状を踏まえると、安全で体系的な水泳指導の機会を公共として確保する意義は、今後さらに高まるものと考えられます。</p>	<p>本基本計画 1 ページにある通り、市営プールは市民のスポーツ・健康増進やレクリエーション活動の拠点であると考えております。</p> <p>運用については指定管理者と協力し、効果的なものとなるよう努めてまいります。</p>

		<p>そのような状況下において、新たに整備される市民プールは、市民の健康運動施策および子どもの安全対策を支える拠点施設として位置づけていただきたい次第です。指定管理者制度を採用する場合であっても、市が運営方針や事業水準に一定の関与を行い、質の担保された水泳教室や継続的な指導体制を構築することが重要であると考えます。</p> <p>市が主体的に関与する水泳教室の実施は、子どもたちの基礎的な泳力習得と安全確保に寄与するのみならず、高齢者を含む市民全体の健康づくり、施設稼働率の向上、公共施設としての価値の最大化にも資する施策と考えられます。</p> <p>市民プールの建て替えを、単なる施設更新にとどめることなく、将来を見据えた健康・安全・教育施策の一環として位置づけ、市民に長期的な利益をもたらす計画として検討いただくことを要望いたします。</p> <p>ご検討のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。</p>		
27	A	<p>今回の基本計画（案）は、令和3年度から十分に時間をかけ、市民、利用者など多くの方からの意見を聴取してきている。それらを踏まえ、現在の課題を解消するため丁寧に検討しているため、まとめられている案に賛成。</p> <p>特に屋外プールは、昨今の猛暑により使用することが困難な時期が多くなることが想定され、維持する必要はない。</p>	<p>ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>	
28	F	<p>説明されている部分があったらごめんなさい。</p> <p>2階建てのメリットで利用者と観覧者の距離が保てるとのことでしたが、イラストでは共有エリアから見えるように捉えました。共有エリアから特にキッズ用のプールのところが見れた場合、家族は至近距離で見れますが、第三者が観察や動画も撮れてしまう状況なのではないかと思いました。</p> <p>また、2階の観覧席エリアはガラス張りにせずとも、イベントなどで声などかけやすいのかなと思いました。</p> <p>最後に…共有エリアから中の混雑状況が見えるのは便利ですが、中には常に動画でなくとも、静止画で中の状況が映されるカメラなどもあるので費用面を考えないで言えばそういった機能でも賄えると思いました。</p>	<p>共用エリアから内部の賑わいを感じられる構成を意図しておりますが、プール利用者のプライバシーやセキュリティへの配慮は重要と考えております。視線の制御や見え方の工夫、2階観覧エリアの設えについては、利用実態や関係者・利用者の意見を踏まえ、今後検討してまいります。</p> <p>混雑状況を把握する手段について、利便性の高いものを設置する計画です。</p> <p>ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>	
29	-1	H	<p>新しいプールの方針がよく分かりました。良く考えられていると思いました。</p>	<p>No.11-2 をご参照ください。</p>

			が、今まで子ども達が安価で利用できていた面については、どうなるのかが分からなかったです。民間プールは家庭環境で格差が生まれるので、市営プールが気軽に利用できるのは大事です。	
	-2	C H	ただ、境南町住民からすると、やはり、市営プールに行くまでが遠く、学校プールとの連携も考えられたらと思いました。	ご意見を踏まえ、実現可能性について検討をいたします。
30	-1	A	約 70 年間、武蔵野市に住んでおります。毎年のようにプールを利用しております。屋外プールが無くなるのは残念だと思いました。	No.2 をご参照ください。
	-2	H	全て屋内プールにした場合は、特に冬の設備費等が気になります。税金から払われるんですよね？	運営や維持に係る費用は現在と同様、市の財源から支払うこととなります。使用エネルギーの抑制や省エネ・創エネ対策、クリーンセンター熱源の利用等、環境に配慮し、費用を削減できるよう基本設計・実施設計を進めてまいります。
31		G	配置計画について 更衣室も清潔になり、更衣室からプールへの動線もシンプルで、快適に使用できるようになります。楽しみにしています。	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
32		A H	40 年前に中町に引越し、結婚して子育て中も本当にプールはよく利用しました。屋外プールは子供にとって、開放的で夏の楽しみの一つでした。武蔵野市は高齢化し、平日プール利用の高齢者は屋外を利用せず、屋内のみを利用して、それは夏も同じかと思います。よって、屋外プール廃止の 6 割のうち、子育て世代や若い世代がどれだけいたのか。気になります。武蔵野市はもともと税制的には恵まれているはず、費用面では他に削れるところがあるかと思います。	16 歳から 19 歳では現状維持の案 1 が 43.8%、温水プールと管理棟を建て替え、屋外プールを廃止し、屋内プールなどの機能を拡充する案 3 が 25.0%でした。20 歳代以降 70 歳代までは 10 歳刻みでいずれの年代も案 1 が 1 割前後、案 3 が 6 割前後の回答を集めております。利用者に直接行ったヒアリングでは、子ども 222 名のうち 12 名から、大人 95 名のうち 15 名から屋外プールの存続を希望する意見をいただいております。
33	-1	A	p.7 オフシーズンの 9 月～6 月、5 市平均と武蔵野市がほぼ同じ人数なのは面白いですね。5 市の人口、プールの規模、それぞれバラバラと想像します。	ご意見として承ります。
	-2	A	p.21 年間の利用者数の増加を目指します。とあるが、p.7 の 5 市平均と武蔵野市の違いが屋外プールだったとするとそれが無くなれば 5 市のカーブのようになるのではないのでしょうか。つまり増加は難しい目標じゃないのでしょうか。	屋内化による通年利用の促進や、安全で快適な施設整備により、年間を通じた利用者数の増加を目指してまいります。
	-3	D	p.21 プールイメージからは遊べるプールは幼児	本計画の図はイメージです。ご意

		向けのように見えます。中学生まで遊べるようにしてほしい。ビーチボールのような遊具も使えるように。	見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
-4	G A	p.21 p.22 イメージ図からはプール以外が充実してるように見える。屋外プールをなくすのだから付随設備ではなくプール機能を充実させるべき。	本計画の図はイメージです。ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
-5	G F	p.22 観覧は必要？知らない人に見られながらプールを利用したくないと感じる人はけっこういるんじゃないでしょうか。	主に、教室等に参加するお子さんや、大会等開催時の選手や参加者を観覧する際に利用されると考え、設置する計画です。
-6	D	p.22 待機中の子どもが飽きない工夫とは？保育機能を付けるということでしょうか。	基本設計・実施設計の中で検討してまいります。
-7	A G	p.22 p.21 で入場制限を考えるくらいなのに「II 市民の交流の場を創出」に面積とりすぎじゃないでしょうか。	共用スペースは、これまでプールを利用していなかった市民にも来訪いただき、施設全体を身近に感じていただくための場として位置づけております。プール利用状況とのバランスについては、ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進める中で研究し、今後の運用の中で適切に整理してまいります。
-8	A	p.23 広場を拡張してイベントとありますが、近隣にエコゾートやむさしの市民公園などもあり、似た機能が集中しそうです。年何回くらい想定されてるのでしょうか。	具体的な開催イベントについては、今後検討してまいります。既存のイベントにおける混雑緩和にも寄与できるものと考えます。
-9	A	p.23 緑比率の向上に貢献しませんか？	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
-10	A H	p.23 多額の費用が見込まれるとのことなのでプール機能の向上を第一に周辺にどれだけ使うか考えるのがいいと思います。	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
-11	A F	p.23 一時集合場所は隣りにある第四中学校の校庭または大野田小学校の校庭ではないでしょうか。さらにプール前広場もそのようにするのでしょうか。	市立小中学校は市が指定する避難場所であり、市営プールについては避難場所等の指定はされておりませんが、緊急時に一時的な避難も可能となる施設整備を計画しております。
-12	A	p.23 避難所として使うのであれば総合体育館のほうが広くて良くないでしょうか。	総合体育館は災害時の緊急物資輸送拠点となっております。
-13	G	p.28 なぜプールで演奏？	本計画の図はイメージであり、必ず演奏を行うと決めているものではありません。
-14	A G	p.28 共用スペースを充実させるならプール機能を充実させたほうがいい。	本施設は、プール利用者に限らず、これまで体育施設の利用機会の少なかった市民にも親しまれる

				<p>施設とするため、交流の場としても活用できる共用スペースの充実を図る計画しております。また、こういった空間を通じて施設に親しんでいただき、結果としてプール利用につながることを期待しております。</p> <p>プールの機能充実については施設全体のバランスを鑑み、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>
34	-1	A G	<p>外のプールに子供と行くことを、毎年楽しみにしています！</p> <p>屋内プールも、開放感があり素晴らしいと思います。</p> <p>ともに残す形を検討していただきたいです！</p> <p>我々大人も、夏の暑さには参っております。水の中に入り、風を受けると、さっきまでの酷暑が嘘のように気持ちのいいひと時を過ごすことができます。それはやはり、外のプールだからこそその気持ちよさです！</p> <p>既存の施設継続を強く望みます。</p>	No.2 をご参照ください。
	-2	D C	<p>都会で暮らす子供たちは遊び場も減り、家にいることを余儀なくされています。そのような現状を市でももっと重大に受け止め、子供たちが心身ともに健康に育ち、ここ武蔵野市で豊かに育つための一つの貴重な施設として、現在の外のプールを含めた武蔵野市民プールを大切にしていただけたいと思います。</p>	No.2 をご参照ください。
	-3	A	<p>プールを利用していても、パブリックコメントについてや、外のプールがなくなることなどお知らせを目にすることがありません。もっと、実際の利用者に実態が届き、声を聞いていただけるような形を望みます。</p> <p>まだまだ知らない人も多い中、こんなに大事な計画が進んでしまっていることに危機感を覚えます。</p> <p>パブリックコメントの期間を延ばし、もっとたくさんの意見を集め、議論の機会を増やし、丁寧に進めていっていただけると幸いです。</p> <p>そのあたりの利用者の気持ちもご理解いただき、これからの計画や見直し、進め方にご反映下さい。</p>	<p>今回のパブリックコメントの期間は延長いたしません。ご意見を踏まえ、利用者に情報を十分にお届けできる工夫を検討してまいります。</p>
	-4	G C	<p>暑くて日中利用できないような時には時間帯を延ばして、ナイトプールなどやっていただけると、これからの厳しい暑さも市民が健康に楽しく過ごせる素晴らしい武蔵野市として、都内でも益々人</p>	<p>ご意見を踏まえ、運用を検討してまいります。</p>

			<p>気な地域になるのではないのでしょうか？ 欲を言えばジャグジーが欲しいです。</p>	
35	-1	A H	<p>様々な方面からの意見をまとめてくださり、ありがとうございます。</p> <p>どの方面からの意見も納得できるものばかりで、どれをとっていくのか、予算や限られた土地の中で、何を優先していくのかはとても大切な視点ではないかと思いました。</p>	<p>公共施設として、安全性と衛生性を最優先と考え、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>
	-2	E F H	<p>【市の施設として】 =様々な立場の市民にとって使いやすいものであること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー化 ・水深などの安全面の確保 ・水の反射などによる監視のしにくさからの安全面の確保 ・家族・障害者・性的多様性の方々も利用しやすい更衣室 ・清潔感（トイレや更衣室、シャワーなど。水の入れ替えの設備など） ・特に混雑する時期だけでも、他市の方との利用料の差があるといいのではないか。市民予約枠を作るなど、市民としての利用のしやすさがもう少しあっていい気がしています。 	<p>ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。施設の使用料については、受益者負担割合等を考慮し、検討いたします。</p>
	-3	C G	<p>【健康目的として利用するため】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングコースの充実 ・手すりやスロープなど ・ジャグジーやサウナ、採暖室（?温室）など 	<p>ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。なお、入水用スロープやジャグジー、採暖室は設置する予定です。</p>
	-4	B	<p>【スポーツ競技として使えるものとして】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公認の設備であること。 ・飛び込みなどの練習ができるコースもあるといいのでは？（時間で分ける？） 	<p>ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>
	-5	D G	<p>【子育て世代向けにありがたい施設として】</p> <p>ここは予算や広さが一番問題になってくると思いますが、ぜひどれか1つでも取り入れていただければ、子ども達にとって、より良い憩いの場になると考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと子どもが自由に遊べるプールスペースがあるとありがたい。 ・ウォータースライダー（安全な場所で挑戦をすることで、子どもの踏み出す勇気や決断力、達成感、自己肯定感などを育て、バランス力や筋力もつけることができる。また、水が苦手な子も、スライダーの後の水しぶきをあびているうちに水に慣れていくことも可能。また、順番を待つ、ルールを守るなどの社会性も育つ） ・流れるプール（浮袋、ビーチボール OK） 	<p>ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。おむつについては No.15-2 をご参照ください。</p>

		<p>交流の場として、流れる感覚・流される感覚を楽しみつつ、コアの筋肉やバランス感覚、川の流れや潮流など水の性質や怖さを知る機会にもつながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・波のあるプール これも内陸で海が遠い武蔵野市としては、海など自然なものへの体験活動の1つとなりうる。 コアの筋肉、バランス感覚など ・動きの激しい小学生と乳幼児期の子が主に使用するプールが別々にあり、乳幼児期の子が安心して遊べるといい。 ・親が見守る時に、上から見られるといいが、今の見守りスペースはすごく湿度が高く、暑すぎたりするので、快適な温度・湿度で見守りができると、小さい子を連れてくるお母さんも楽になる。 ・まだオムツの外れていない子も遊べるプールがあると子育て世代にとってはありがたい。最近ではオムツが外れるのが3歳すぎる子も増えてきていて、それまでプールに通えないのは残念だし、特に上に兄弟がいる場合、上の子を連れて行ったはいいものの、下の子はずっと待ちになってしまうので、タライなど小さなものでもいいので、おむつはずれ前の子も入れる水遊びの場所があるとありがたいと思う。 	
-6	A	<p>予算もある中だと重々承知の上、、、 20年後・30年後に“あってよかった”と言われるかが大切な部分だと思っています。</p> <p>子どもたちが大人になったとき当時を思い出しながら、また様々な立場の人がプールを思いながら</p> <p>「武蔵野市のプール、楽しかったし安心だったよね」</p> <p>「いつも皆で遊びに来てたよね」</p> <p>「あそこであんなことをして、それから水が怖くなくなったんだ」</p> <p>「家族でこのプールに来るのが週末の楽しみだったな」</p> <p>「あそこでリハビリをして、バランス感覚が身についたから、杖を使ってでも、少しずつ歩けるようになったんだ」</p> <p>「あそこのプールで毎日足腰を鍛えてたから、幾つになっても健康で笑ってられることに感謝するばかり」</p> <p>そう多くの人の記憶に残るプールとなることを</p>	<p>ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>

			願っています。	
36	-1	A	屋外プールについてですが、太陽の元、井戸水を利用した現在のプールは、遊戯用ではない、水泳用として、都内でも貴重な存在です。子供達にとっても、夏空の下、日焼けをして泳ぐことは、とても素敵な経験になると思います。是非、残していただきたい。	屋外プールにおいては現在、水道水を利用しております。 屋外プールの方針についてはNo.2をご参照ください。
	-2	A	昨年より、週に2度は通い続けていますが、意見を募集をしていることを知ることができませんでした。もっと、たくさんの人に知らしめて欲しかったです。パブリックコメントも含めて、再度、延長して、武蔵野市の方々に、意見を聞かれてはいかがでしょうか。現在は、武蔵野市民ではありませんが、もと武蔵野市民で、お世話になっておりました。ぜひ、よろしくお願いいたします。	今回のパブリックコメントの期間は延長いたしません、ご意見を踏まえ、利用者に情報が届くよう工夫をしながら基本設計・実施設計を進めてまいります。
37		G A	屋外プールには自然光に包まれながら、周りの古い木の下には木漏れ日があり、武蔵野市らしい寛ぎの空間があります。成蹊ライフセーバー部や水泳部のバイトの方々が監督者をされてるのも安心です。どうか屋外プールを残してください。	No.2 のとおり屋外プールは廃止する方針ですが、屋外の要素を取り入れた施設とすることを検討いたします。
38		A	全般に対して意見します。	ご意見として承ります。
		B	基本的には長水路プールの廃止に反対します。 長水路(50m)プールは東京都市圏ですら依然として貴重なリソースであり、「武蔵野市」の市民向けサービスの領域を越えて周囲の自治体から人を集められる資源たりうる。 横浜国際プールの廃止がほぼ確定・辰巳国際水泳場→アクアティクスセンターの大幅値上げが起きている現状、長水路をはじめとした大型プールのニーズを武蔵野市で吸い上げて自治体のプレゼンスを高める戦略も現実的ではないか。 市民の民主的な意見は常に重要といえる一方、東京都市圏においては市民だけではなく近隣自治体との競争も重要なテーマになりうる中、武蔵野市が持つ貴重なリソースの有効活用はより戦略的に検討してほしい。 隣接する市立第四中学校のプール運営との整理も十分になされているようには見えない。短水路プールを2つ隣接して作って何の意味があるのか？いくら一体運営とはいえ、市民のリソースの戦略的有効活用であるとは考えづらい。	運営上、市営プールは社会体育施設、第四中学校プールは学校教育施設として整理しております。夏季及び学校の使用時以外は、第四中学校プールを利用していただけます。
39	-1	A	・第3章利用者ニーズと関係者意見 時々利用するので「利用者意見箱」の存在は知っているが、日常的な利用上の意見のための設置と認識しており、改修計画への意見を募集している	ご意見を踏まえ、利用者に情報を十分にお届けできる工夫を検討してまいります。

		<p>という認識はなかった。プール利用者に改修計画への意見を積極的に聞く機会を設けてほしかった。</p>	
-2	A C G	<p>・第5章 市営プールの施設整備計画</p> <p>全面的に計画を見直して、屋外プールを残し、全体のプール面積を現状と同程度確保してほしい。</p> <p>夏期の屋外プールは、武蔵野市の住民でよかったと思える一番の誇りと言ってもよいくらいです。青空の下で泳ぎ、木陰で風に吹かれながら休むからこそ、夏のよき思い出になる。屋内プールでは残念ながらこの満足感は味わえません。暑いからこそニーズ（利用者）が増しており、なくしてしまつたら必ず後悔することになると思います。</p> <p>そもそも夏の週末は、屋外 50m プール、屋内 25m プール、子どもプールのすべてが満員状態です。それなのに、本計画では、プール面積が現在の半分程度になることになり、夏期の需要を満たせないことは明らかです。</p> <p>（作夏、幼児の嘔吐で屋外プールが急遽使えなくなった際、屋内プールが芋を洗うような混雑でまともに泳げませんでした）</p> <p>プールの面積の縮小に対して、憩いの場、ロビー、歩道などに、必要以上にスペースを割く計画になっていますが、憩いの場は市内にたくさんあるので、プールは、泳ぐための施設として、プール面積の確保を優先してほしいです。</p>	<p>屋外プールについては No.2 をご参照ください。</p> <p>屋内 50m プールの整備は想定しておりませんが、夏季利用の集中や安全確保を踏まえ、レーン数の確保や可動床（昇降床）の採用、運用方法の工夫などにより、利用の分散と安全性向上を図る方策を検討してまいります。</p>
40	A C	<p>市営プール更新計画について。屋外プールを何らかの形で残して欲しい。どうしても無理なら、プールのサイズを極力大きくして、水泳する際、余裕のあるスペースを作って欲しい。込み合うとお互いぶつかり危険。</p>	<p>屋外プールについては No.2 をご参照ください。</p> <p>安全性や快適性の確保についてはご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>
41	-1 A C	<p>計画書の巻頭では「健康づくり需要の高まり」への対応を掲げているにも関わらず、計画内容にはその対応方策は何も書かれておらず、武蔵野市らしい“事業の先進性”も全く感じられない。</p> <p>本計画書の巻頭文である「第1章 基本計画策定の位置づけ 1 計画策定の背景と目的」には、「市民のスポーツ活動の多様化や健康づくり需要の高まり、性別・年齢・障害の有無に関わらず誰もが利用しやすい環境整備への要請、さらには気候変動や災害への備えなど、公共施設に求められる役割は建設当時から大きく変化しています。」と書かれている。この内特に「健康づくり需要の高まり」については、現代の大きな潮流である高齢化社会の進展を受けて急速に拡大していることは衆知の事</p>	<p>ご指摘のとおり、健康づくり需要の高まりへの対応は、本計画において重要な視点の一つです。本計画では主に施設整備の方向性を示しておりますが、健康増進を目的とした水中運動や高齢者・フレイル対応などのソフト面の取り組みについては、今後指定管理者と検討してまいります。</p>

		<p>実であり、厚労省においても健康の維持増進に向けた「標準的な運動プログラム」において、成人向けと高齢者向け（特にフレイル対応）共に有酸素運動と筋力トレーニングのために水中における運動を推奨している。</p> <p>また、「武蔵野市のスポーツ・運動に関するアンケート調査（令和2年（2020）度）」においても、市営プールを利用する目的として、「健康の維持・増進のため」が54.4%と第一位となっている。</p> <p>さらに第二期武蔵野市スポーツ推進計画の「第1章 計画の考え方」にも記載されているように、文科省・スポーツ庁による「第3期スポーツ基本計画(令和4(2022)年3月)」においては、12の施策の一つとして「スポーツを通じた健康増進」を取り上げており、さらに東京都の「スポーツ推進計画(令和7(2025)年3月)」においても、三つの施策目標の一つとして「健康長寿の達成」を掲げている。</p> <p>このように、プール特に通年利用可能な屋内温水プールには、従来からのスポーツスイミングや競技の拠点としての機能に加えて、健康維持向上のための拠点としての役割が年々高まっていることは誰もが認識していることである。</p> <p>しかし、本計画においては巻頭で「健康づくり需要の高まり」を述べているだけで、本文中にはその対応施策は全く見られず、トイレの洋式化や斜路によるバリアフリー化等のありきたりの記述のみで時代の要請への対応や先進的なソフト面での取組等は何も書かれていない。委員会資料の各自治体の事例もハード面が中心で、特筆すべき運営ソフト等の資料は全く見られない。まさか現行プールにおけるウォーキング用コース確保だけで終わらせるつもりはないと思うが、より先進性のある施策整備にも結び付く武蔵野市らしい市民が誇れるハード、ソフト面の提案が期待される。</p>	
-2	A	<p>市長と市議会には、行政内連携による多くの市民が集まる活気のある公共施設の実現に向けて、先進性のある取り組みを主導してもらいたい。</p> <p>前述のような、プールを適切に活用した「健康づくり」需要の拡大に対応していく上では、プールの整備と運営管理を所管する教育部生涯学習スポーツ課と成人の健康管理や高齢者のフレイル予防等を所管する健康福祉部健康課との連携による、効果的なイベントプログラム等のソフト面での施策の検討やそれに対応した施設整備が不可欠と考えられる。場合によっては、サブプールのデザインな</p>	<p>ご意見を踏まえ、関係各課等とさらなる連携を図るよう検討いたします。</p>

		<p>どにもフレイルプログラムへの対応機能を取り込む必要がある。</p> <p>このような取り組みを初期段階から適切かつ円滑に進める上では、市民の多様な要望に対応して行政内の縦割りを乗り越えて、活気があふれる複合施設となっている武蔵野プレイスと同様に、市長や議会から各部署への強力な連携の働きかけが不可欠と考えられ、早期の前向きな対応が期待される。</p> <p>武蔵野プレイスを所管し「図書館エリア」を適切に運営指導している教育部であれば、このような取り組みは問題なく進められるのではないかと考える。</p>	
-3	A C H	<p>屋内温水プールを日常的には利用することができない推定数万人の市民の実態把握や、それへの対応方策に関する記述が全くない。このような公営プールに関わる全般的な課題や将来の方向性を整理することなく、その場対応の建替え施策を取りまとめただけでの計画資料では、本来、保存継承すべき計画行政資料としてはお粗末すぎる。</p> <p>本計画の前提調査である「武蔵野市のスポーツ・運動に関するアンケート調査（令和2年（2020）度）」では、不特定の市民が市営プールを利用しない理由は“自宅から遠い”が最も多い。スポーツの試合であれば遠距離の競技施設を訪れることはあるが、1日当たり約200人程度の利用実態から想定しても、健康づくりのための日常利用の場としては、既存の1箇所みのプールだけでは多数の市民の利用要請に全く対応できていないのは当然である。</p> <p>しかし、現在のプールの誘致圏がどの程度の距離であるのか、市民からの需要や要請はどの程度あるのか、それに対応した今後の検討課題は何なのかといった、プールを取り巻く問題点や課題に関わる調査成果や提案の記述は全く見られず、本計画書の巻頭に書かれた“現代の社会的ニーズにこたえる”や“公共施設に求められる役割は建設当時から大きく変化しています”などの文章は絵空事のただのお飾り文となっている。</p> <p>健康指向の拡大に伴う屋内プール需要の増加が見込まれる以上、適正な誘致距離の把握や、当市の図書館のようにあるいは都内の多くの自治体のように、市民の要請に真摯に対応した複数施設（プール）の適正配置を検討すること等を、計画行政における今後の取り組み課題として記述し、継続的な調</p>	<p>市民施設についてはこれまで、全市レベル、駅圏レベル、コミュニティレベルの各々の生活空間に必要な施設を効果的、効率的に配置する三層構造の考え方を基本に整備しており、市営プールは全市レベルの施設と位置付けられているため、市内に1か所設置しております。</p>

		<p>査へと結びつけるべきである。</p> <p>当然ではあるが、健康増進やフレイル予防施策が介護保険や健康保険負担の削減にどの程度の効果があるのかと言った調査研究や、プールの規模や整備費用、ソーラー発電や蓄熱等による維持管理費軽減策などの実現可能性調査も進める必要がある。余談となるが、一事例として拙宅は総合体育館、プールから約4キロの境5丁目にあるため、境北(桜野)小学校にまだプールが無かった時代の小学校高学年時に、市営プールには3～4回行っただけであり、総合体育館、屋内プール開設後も、自転車でも公共交通でも片道約30分を要し、公共交通利用では2回の乗り換えで最低でも往復で760円を要するため、完成時に一度見学に行ったきりで全く利用できずにいる。</p> <p>健康維持のために毎週泳いでいる年金生活者の私としては、低廉な市営プールを利用したい希望はあるが、体力的、時間的、経済的(交通費)な負担の大きさから日常的な利用は不可能であり、これは近隣住民も同様と言えよう。本来、市民のためにはあるはずの屋内温水プールを遠方から指をくわえて眺めるしかないのが実情であり、今後の改善策の進展を期待したい。</p>	
42	-1	<p>A 「地域に開かれた公共施設として利便性と環境性を高める視点が重要」とまとめられているが、市の北端に位置する立地の課題についてはどのように位置づけているのか、具体的な記述を加えていただきたい。</p> <p>C 『第二期武蔵野市スポーツ推進計画 令和4年3月』のパブコメには、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西側に住む我が家は体育館やプールへのアクセスが悪く利用頻度が低い・・・。 ・水泳を習いたいと思っておりますが、民間スポーツクラブは月謝が高いので躊躇しており、市のレッスンの利用したくともアクセスの悪さで踏み切ることができません。 <p>などの意見があり、全市民の利便性についてどのような課題があるのか、P4の位置図をもとに分析してほしい。(バス路線やバス停位置などを図に落としただけでも、課題が明確になる。)</p>	No.41-3をご参照ください。
	-2	<p>A ※前記意見に対する回答として、「プールの今後のあり方については、第六期長期計画・調整計画の策定の過程において、議論を深めて・・・」とあるが、第六期長期計画・調整計画で十分検討されたのだろうか。市民の利便性を高めるためには、①徒歩</p> <p>C</p> <p>H</p>	<p>有識者会議では特に施設の整備方針についての検討を行いました。</p> <p>①ご意見を学校施設担当及び施設開放担当と共有させていただ</p>

		<p>圏に配置されている学校のプールの市民利用、②駅圏ごとの新規プール配置、③現在の市営プールへのアクセス改善（駐車場や駐輪場の拡充ではない）などを考える必要がある。</p> <p>今回の計画では、利用者や関係者へのヒアリング、アンケートを行っているが、利用しない市民の意見に耳を傾けることも必要。そのような視点がなければ、事例調査に基づく利用者増に向けた有識者会議での検討も実現性に乏しいと思われる。</p>	<p>きます。</p> <p>②市域において、新規にプールを設置することは難しいと考えます。</p> <p>③ご意見として承ります。</p>
-3	A	<p>戦前から残る 50mプールについて、歴史的な貴重性と都内における貴重性について、</p> <p>「残す／残さない」に関わらず評価の記述をしていただきたい。</p> <p>北町周辺の住民や利用者には 50mプールの廃止を惜しむ声が多くあり、都内でも稀有な施設である。限られた土地の有効利用のために存続が難しいとしてもこの施設の歴史についてはきちっと整理して残しておく必要がある。(例えばロビーに掲示するなど)</p>	<p>屋外プールは長年市民に愛されてきた施設です。その歴史や意義を整理し、パネル展示や記録資料の作成などにより後世に残す方法について、今後検討してまいります。</p>
-4	A G H	<p>平成元(1989)年の屋内プール整備について、四中プールとともに開閉式の屋根を採用している。当時、ドイツの「ゴールデンプラン」などを模範として造られたと推測されるが、この屋根が開いていた記憶があまりなく、実際にこの開閉式屋根の稼働状況や評価について、課題整理の中でまとめる必要があるのではないかと。</p> <p>プールに対する市民意見には屋根のないプールを望む意見もあり、屋外プールは近隣行政の施設調査結果からも夏場人気の施設である。開閉式屋根の整備コストや管理の課題など、今後無駄な施設を造らないためにも、この章で整理しておく必要があると考える。</p>	<p>現施設の可動屋根については、稼働状況や効果、メンテナンス性を総合的に整理したうえで、今回の計画では採用は想定しておりません。屋外プールや可動屋根の開放性等に替わる要素については、基本設計の中で検討してまいります。</p>
-5	A	<p>「利用者数の推移」について、調査項目に他市の施設の立地やアクセス等の利便性に関する記述を追加すべき。また、調査結果のみではなく今後想定される分析を記述していただきたい。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>
-6	A	<p>文末の「利用者数の季節的な変動が大きいことが、利用実態における屋外プールをもたない近接自治体との違いです。」は屋外プールの人気があることの裏付けであり、屋外プールを廃止し、屋内プールの施設更新をすることで利用者が平準化すれば利用者は減になり、費用対効果は低い。</p> <p>利便性（特にアクセスの改善）が無ければ、利用者は減ると推測されるが、有識者会議ではどのよ</p>	<p>屋内化による通年利用の促進や、安全で快適な施設整備により、年間を通じた利用者数の増加を目指してまいります。</p> <p>有識者会議では、特に施設の整備方針についての検討を行いました。</p>

		うな意見があったのか。計画の妥当性を裏付けるためには、近接自治体のアクセス条件も比較する必要がある。	
-7	A	<p>プール周辺の動線計画や（自転車・バイク）駐車場、広場などのオープンスペース、外構植栽などの外構計画はプール単独で計画すべきではなく、市役所、クリーンセンター、体育施設全体の総合的な体系をつくった上で位置づけるべき。プールとしての課題をまとめるのは良いが、その課題解決は総合的に計画していただきたい。</p> <p>プール施設の計画ではあるが、総合体育館、陸上競技場、ストリートスポーツ広場との関連が重要である。現在、イベント時の大型バスは市役所及びクリーンセンターなど17号線の西側駐車場に駐車しており、今後も東側に入れる必要はない。東側に入れる車両が何か整理していただきたい。</p> <p>※現在、プール周辺で確認される進入車両は、緊急車両、障がい者の利用車両、管理（工事）車両、イベント時の電源車・キッチンカー等、野活の関係車両である。それ以外の進入車両を想定するのであれば、計画に提示していただきたい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p> <p>なお、有事の際は市役所が防災センターとなるため、市役所駐車場の利用には一定の制約が生じます。市営プールの建替え後は、イベントに必要な大型バスはプール広場等に駐車することを検討しております。</p> <p>現在のところ、プール周辺に進入する車両は、ご意見にて挙げられているものに加え、事業実施のために物品を搬出入する車両が考えられます。これ以外の車両の進入についてはこれまでどおり想定しておりません。</p>
-8	A	<p>プール周辺の課題として、現在の駐輪場の配置や利用状況、広場の利用等について、現状の調査・分析が不十分である。</p> <p>日常、イベント時、季節や時間帯により利用状況が分からなければ、配置ゾーニングは出来ても基本設計レベルの規模設定はできないと考える。</p>	<p>駐輪場や広場については、日常利用やイベント時、季節・時間帯ごとの利用状況を踏まえ、配置や規模を検討する必要があります。現状では、歩行者と自転車の動線混在や不適切な駐輪による安全面の課題もあることから、今後の基本設計において、武蔵野体育館エリア全体を前提に整理してまいります。</p>
-9	G	<p>プール前（東側）広場は、オープンスペースとして多様な使われ方をしており、広場の配置や規模設定、施設整備（舗装を含む）は慎重に行う必要がある。</p> <p>・プール管理棟の東側の広場はプールとストリートスポーツ広場のメイン駐輪場であるが、広場としても使われ、日常的にはストリートスポーツ広場利用者の利用が多い。陸上競技場等の大会時には、参加者の集合やトレーニング場所として利用され、過密となる。</p>	<p>広場は多様な利用が想定される重要なオープンスペースであるため、配置や規模、舗装を含む整備内容は慎重に検討していきます。広場を活用したイベント等も視野に入れ、プール施設と広場のつながりを工夫し、市民が利用しやすい場となるよう検討してまいります。</p>
-10	G	<p>プールへのアクセスや周辺の利用に関する課題として、アクセス動線（手段）や現在の駐輪場の配置及び利用状況について、現状の調査・分析が不十分である。</p>	<p>アクセスについて、ご意見として承ります。</p> <p>駐輪場については、現在、歩行者と自転車の動線が混在している状</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・市道 17 号線の三鷹駅からのバス停（市営プール前）は、プールから遠く、二回信号を渡る必要がある。 ・プール管理棟の南側や 50m プール東側の駐輪場は、利用率が低く、体育館周りは常に不法駐輪防止の仮設バリケードが置かれている。→バリケードを撤去できるよう計画してほしい。 	<p>況を踏まえ、駐輪エリアを再整備することで、広場としての機能を高める計画を意図しております。</p>
-11	H	<p>「1）年間を通して快適に使えるプールの整備」4 つ目に「・・・市立第四中学校プールの施設利用を継続・・・」とある。タイトルの「誰もが利用しやすい・・・」に即して考えれば、夏場利用だけでも他の駅圏で利用しやすい市立学校プールの一般開放を検討すべきではないか。</p> <p>市内には民間のスイミングスクールが複数あるが、横河のスイミングスクールが 2011 年に閉鎖され、藤村水泳教室本年 3 月で閉鎖となるなど子どもたちが水泳を学べる場は減少している。</p> <p>杉並区では、学校開放の一環として夏季休業中に一部の区立小・中学校で、区内在住・在勤・在学の方にプールを開放している。身近なプール環境の整備として検討してはどうか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、実現可能性について検討をいたします。</p>
-12	G H	<p>「2）多様な利用を想定したプール整備」の 1 つ目に「・・・昇降式の床を採用・・・」とある。機械式の装置に関してはコスト（整備及びメンテナンス）、利用頻度、有効性、耐久性等十分検討して整備の可否を決定すべき。結論ありきにしないこと。</p> <p>現在ある開閉式屋根の様に、流行りに飛びつかない姿勢が必要。民間のスイミングスクールで沈床式床材を必要に応じて設置している例もあるので、先行事例を十分調査して決定してほしい。</p> <p>※5章の導入機能の 1) も同様</p>	<p>現在、水深調整のためにプールフロアを日常的に使用しています。可動床導入にあたっては、整備費や維持管理費、耐久性等を考慮し、検討を進めてまいります。</p>
-13	C	<p>「2）多様な利用を想定したプール整備」の 2 つ目に「・・・利用者ニーズに寄り添ったレクリエーションプールを整備・・・」とある。レクリエーション（健康運動）と競技では最適水温が異なるので、多目的にするためには水温についての考え方も整理してほしい。</p> <p>※5章の導入機能の 1) から 3) も同様</p>	<p>ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>
-14	A	<p>課題整理で要望したように、このプールの立地や周辺環境の調査分析を深め、プール単独ではない複合施設としての整備方針を立ててほしい。</p> <p>周辺住民として現在の利用状況をみるとプール利用について、休日以外は個人利用が多い。日常的にはストリートスポーツ広場周辺に集う人が多い。陸上競技大会などの団体利用時は広場いっば</p>	<p>周辺環境の調査・分析を深め、プール単独ではなく、総合体育館・陸上競技場・ストリートスポーツ広場等と連携の取れる整備方針を検討してまいります。あわせて、平時の個人利用と大会時の滞留、夏～秋の暑熱対策としての緑陰確</p>

		いに人があふれ、夏から秋には緑陰が不可欠である。	保など、利用実態を踏まえた外部空間の計画・植栽計画についても検討してまいります。
-15	A	「1)施設と連携した広場・まちづくり」の2つ目に「プール西側中央通りの利便性と・・・バス停を含めた歩道拡張を・・・」とあるが、このバス停(市営プール)は三鷹駅方向に帰る際のバス停である。道の向かい側の三鷹駅から来る際のバス停の配置変更が出来ないか検討いただきたい。 バス停の配置変更が難しいのであれば、この項目は削除が良いと思う。	市道17号線(市営プール西側の道路)を挟む歩道は幅が狭いことが課題となっております。南向きバス停付近の歩道に係る記述については、プールの建替えにより拡張することを検討しております。 また、北向きバス停の配置等については、関係課等と情報共有いたします。
-16	A	あくまでも想定ゾーニング図に対する意見であるが、複合的体育施設群の利便性として、駐輪場は、あまり利用されない位置にあり、管理エリアはストリートスポーツ広場管理しにくい配置となっている。再考を願う。 日常利用の多いストリートスポーツ広場や体育館利用者は計画されている広場に不法駐輪する可能性が高い。また、ストリートスポーツ広場の仮設的管理建屋をプール棟の管理エリアに統合するのであれば管理エリアは東側に配置する必要がある。プール棟のメインエントランスとバス停、駐輪場との配置関係、利便性を重視して再検討していただきたい。	想定ゾーニングについては、プール南側の広場を総合体育館エリアの新たな賑わいと憩いの場として位置づけております。現在、歩行者と自転車の動線が混在している状況を踏まえ、駐輪エリアを再整備することで、安全性を確保しつつ、広場としての機能を高める計画を意図しております。あわせて、管理や利用受付のあり方も含め、全体の利便性が高まるよう今後検討してまいります。
-17	F	導入機能として、水質(浄化方法)についての方針を記述していただきたい。 公共のプールと民間プールで浄化や滅菌の方式に違いがあるかわからないが、幼児から高齢者まで利用する施設であり、水質に関しては十分配慮して最善のもので計画していただきたい。	水質管理については、幼児から高齢者までが利用する施設であることを踏まえ、安全性と衛生性を最優先に検討してまいります。浄化・滅菌方式の選定や管理方法の詳細については、基本設計の中で整理してまいります。
-18	A	令和12(2030)年のまで、まだ時間があるので、是非、市民誰もが利用しやすいプール施設の実現を目指して、プールのあり方も含めて研究や社会実験を行っていただきたい。	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。
-19	D C H	『第二期武蔵野市スポーツ推進計画 令和4年3月』のパブコメにあった意見はとても切実な要望でした。これに対する市の回答は文末のものです。私たちはパブコメを一生懸命書いても計画は変わらないのだとあきらめかけています。今一度このパブコメの意見に向き合っていただきたいと思います。 市民の声 ・西側に住む我が家は体育館やプールへのアクセ	ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。 ムーバス等に関するご意見については、主管課と共有いたします。

		<p>スが悪く利用頻度が低いです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プールに関しては民間のを市民向けに貸し切ったり、割引があったりなどがあると良いと思います。 ・自分は水泳を習いたいと思っていますが、民間スポーツクラブは月謝が高いので躊躇しており、市のレッスンの利用したくともアクセスの悪さで踏み切ることができません。 ・西側は団地やマンションが建ち人口も多いので市役所方面に向かうムーバスなどがあると足を運ぶ市民も増えると考えています。そういった施設へのアクセス面などの検討はなされているのでしょうか？ ・普段から体を動かすことが楽しいということを知らなければ、施設が良くなったからと急に利用する市民が増えるわけではないと思います。 <p>パブコメに対する市の回答</p> <p>ムーバスの運行ルートは、一般路線バス(民営)のバス停から離れている交通空白地域や、運行本数が少ない交通不便地域の解消を目的としています。交通空白・不便地域は概ね解消されていますので、現在新たなムーバスの運行計画はありません。</p>	
43	E	<p>ユニバーサルデザインやバリアフリーに対応しているというのは、多いに期待できるし、とても安心できる施設だと思う。</p> <p>家族や介助者と一緒に利用できる更衣室や多目的トイレが完備されるとの事。当事者も然り、肩身の狭い思いをしておられる大勢の介助者の方々には嬉しい限りだと思う。</p>	<p>ご意見を踏まえ、基本設計・実施設計を進めてまいります。</p>

資料編

1 関連法規の整理

(1)敷地概要

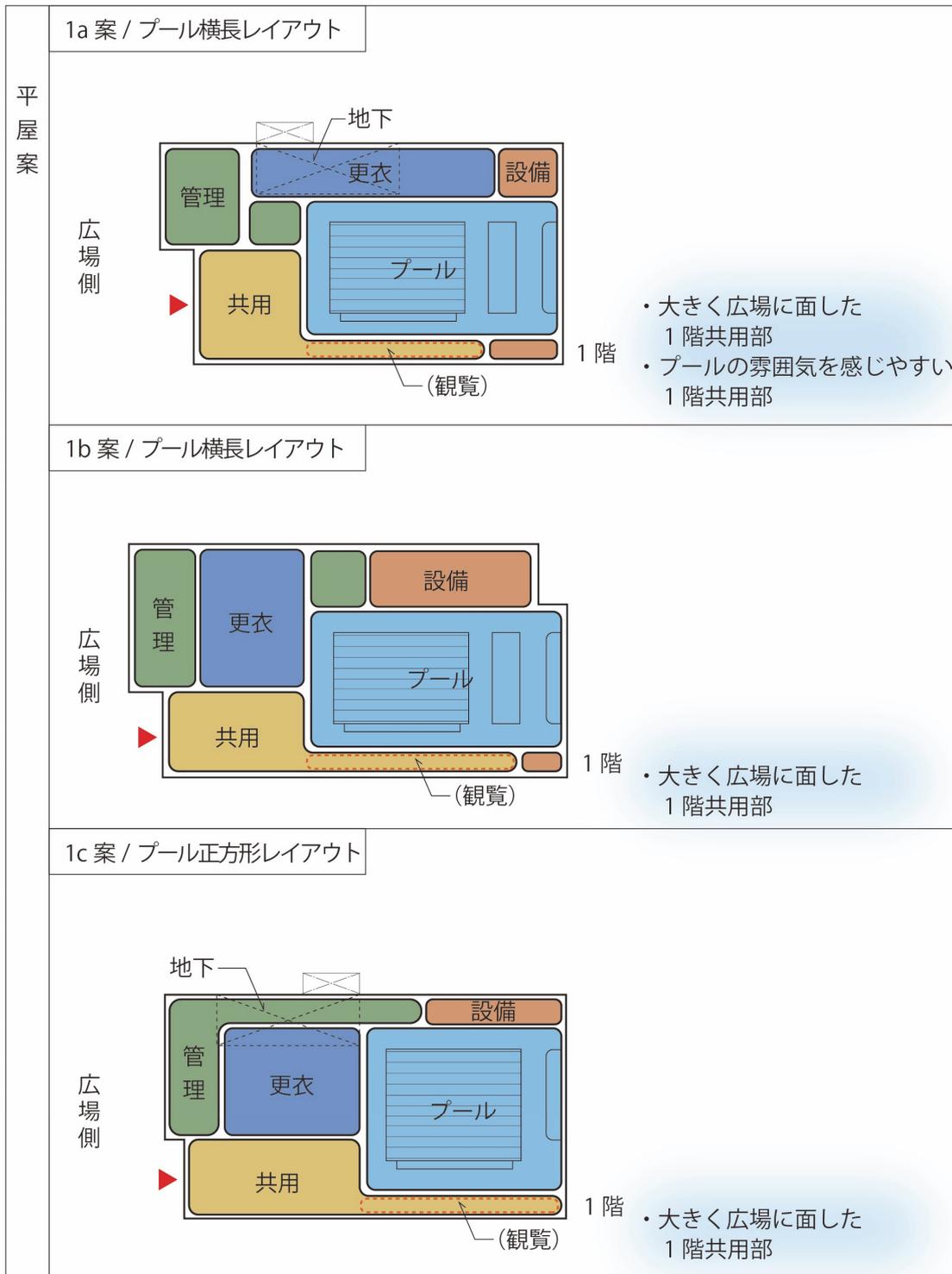
	項目	
1	主要用途	水泳場
2	敷地位置	東京都武蔵野市吉祥寺北町5丁目11番
3	用途地域	第一種住居地域
4	建蔽率	60%
5	容積率	200%
6	敷地面積の最低限度	100㎡
7	高度地区	第2種高度地区 23m
8	防火地域	準防火地域
9	日影規制	4-2.5h/4m (h=10m超の建築物)
10	敷地	
	イ.敷地面積	56,689.24㎡
	ロ.前面道路幅員	15m
11	その他の留意事項	武蔵野市まちづくり条例(平成20年9月武蔵野市条例第39号)
		市道17号線無電柱化事業との調整
		道路の切り開き

2 施設規模・ボリューム検討

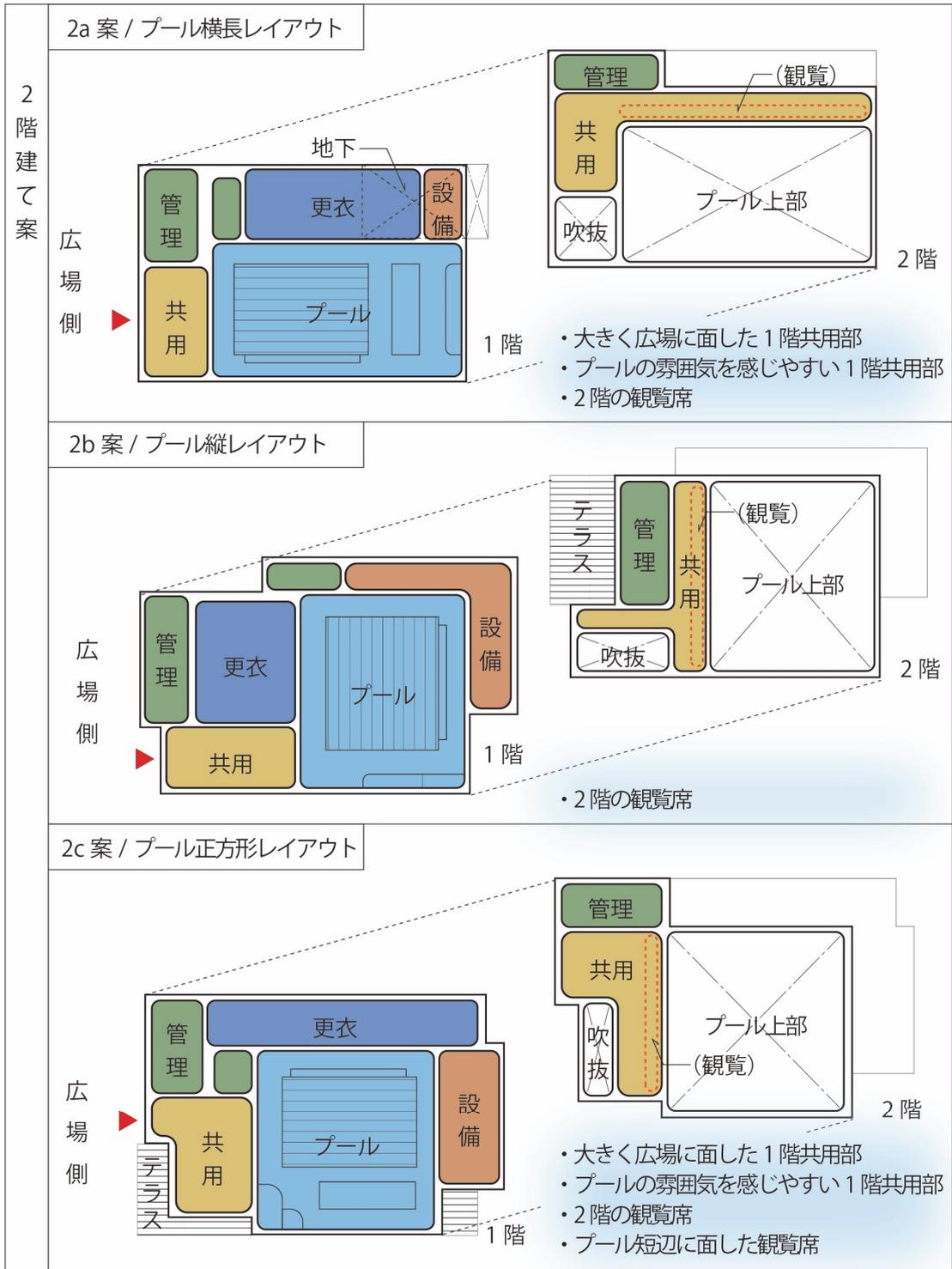
(1)施設構成(ゾーニング)の検討

①施設構成(ゾーニング)の検討

“第5章2 施設計画”のゾーニングを作成するにあたり、様々なパターンを検討しました。その経緯を下記に示します。



【施設構成(ゾーニング)検討表 1】



【施設構成(ゾーニング)検討表 2】

②施設構成(ゾーニング)の方針決定

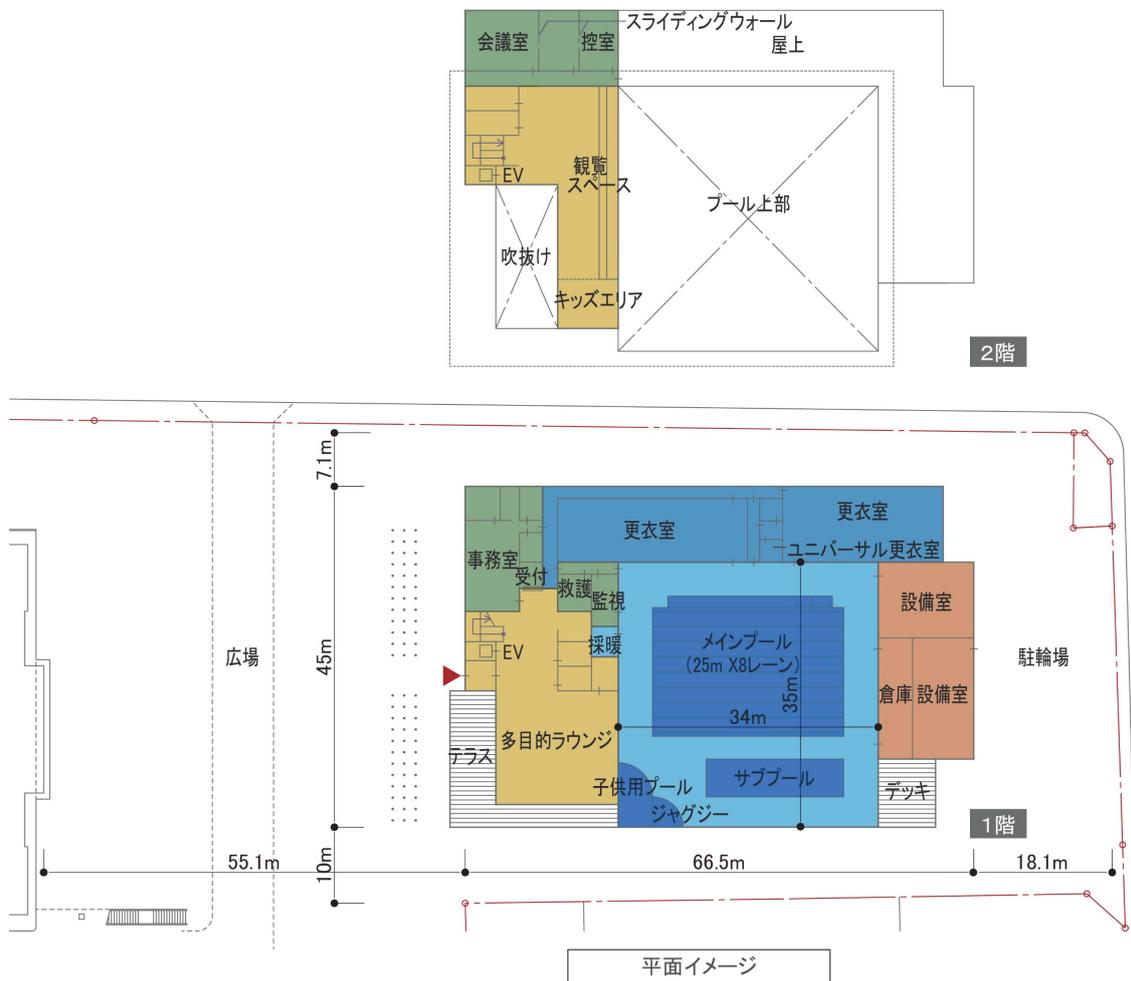
施設ゾーニング検討表 1 および 2 のパターンについて、以下の考え方を基に基本計画における施設ゾーニングの方針を決定しました。

- ・ 広場とのつながりを創出するために、1階共用部が大きく広場に面している。
- ・ 1階共用部からもプールの雰囲気を感じやすい配置構成。
- ・ 子連れの親などの観覧者がプール全体を見渡しやすいよう、観覧席を2階でメインプールの短辺側に設ける。

上記の内容を踏まえ、2c案を基本として進めていくこととしています。詳細については今後の基本実施設計にて検討していくこととします。

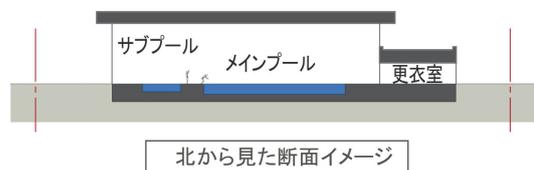
(2)参考プラン

前項目及び”第5章2施設計画”のゾーニングにおける参考プランを下記に示します。

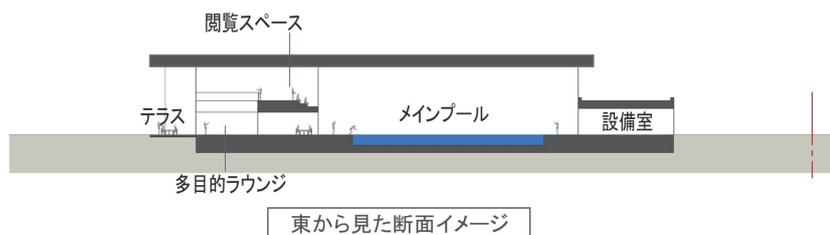


平面イメージ

概ね 3,000 m²を想定



北から見た断面イメージ



東から見た断面イメージ



【参考プラン】

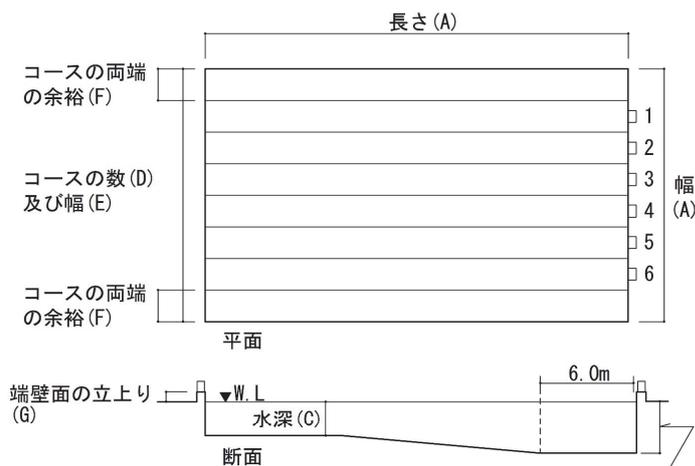
3 関連基準の整理

(1) 参考となる関連基準

可動域に伴う利用用途の参考

主な利用用途	目安となる水深	備考
床上利用	0m	軽微な運動、ボールを使った球技、ゲートボール場、テニスコート、アイススケート、イベントスペース
幼児・親子スイミング	0.3～0.5m	小さな子供の水とのふれあいに適した水深
初心者練習	0.8～1.0m	水慣れに適した水深
小学生	0.6～1.0m	低学年:0.6m程度 高学年:~1m程度
健康水中運動・高齢者のリハビリ	0.5～1.0m	ウォーキング等に適した水深
一般遊泳	1.0～1.2m	
一般競泳	1.2～1.4m	
シュノーケル体験などの利用	3.0～5.0m	飛込やアーティスティックスイミングに対応

25m国内公認競泳プール



25m国内公認競泳プール	
長さ (A)	25.01m (※タッチ版を両端壁に設置する場合25.02m)
幅 (B)	12.4m以上 (15.4m以上推奨)
水深 (C)	1.00m以上 (※1)
コースの数 (D)	6コース以上
コースの幅 (E)	2.0～2.5m (2.5m推奨)
コースの両端の余裕 (F)	0.20m以上 休息棚の幅以上
端壁面の立上り (G)	0.3m

スタート台のあるプールでは
端壁前方6.0mまでの水深が1.35m以上必要

4 近年の先行事例調査

(1) 魚津市室内温水プール とび UO! プール

富山県魚津市に整備された木造と鉄骨造の平屋建てプール施設です。エントランスからプールまでもフラットで、スロープ付きコースも備えており、子ども・高齢者・障害のある方にもアクセスしやすいづくりが特徴です。本施設もプールと同レベルの位置に全面ガラス張りの観覧席があり、プール全体が見渡しやすいづくりとなっています。



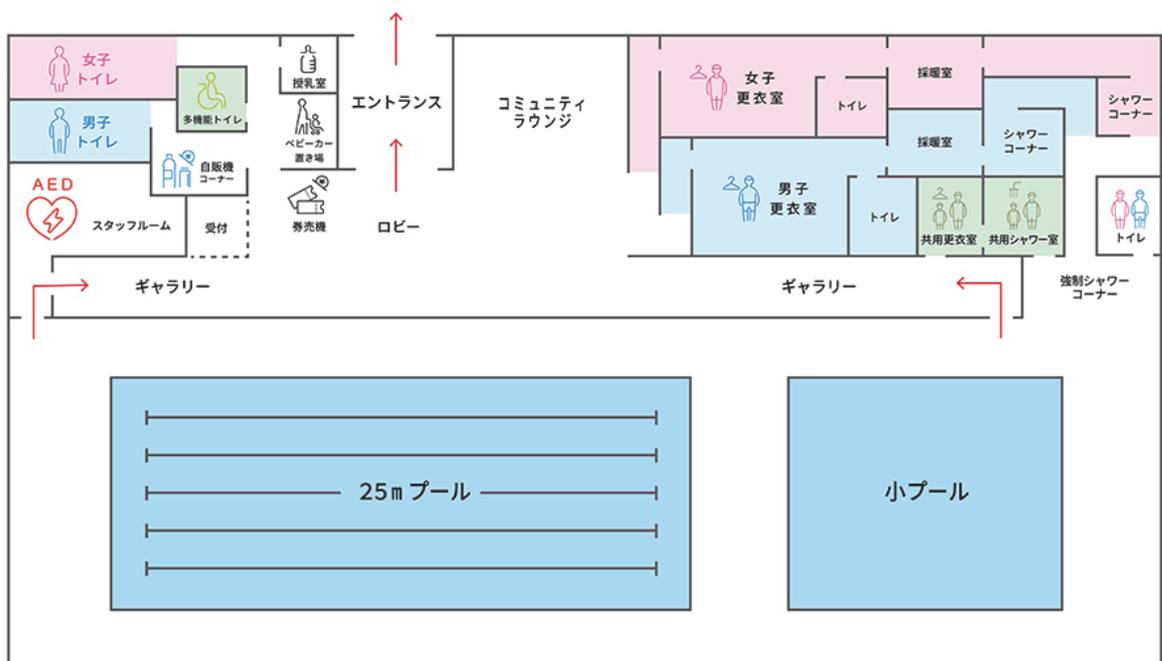
室内プール写真
(出典：魚津市室内温水プール HP)

【基本情報】

- ・竣工年：2025年
- ・所在地：富山県魚津市
- ・延床面積：約1,822㎡
- ・階数：地上1階
- ・構造：S/W

【整備内容】

- ・大プール（25m×6コース+スロープ、水深1.1cm）
- ・小プール（13.5m×13.5m、水深0.5cm）



【フロアマップ（出典：魚津市室内温水プール HP）】

(3)CCNC プールたけとよ(武豊町屋内温水プール)

愛知県武豊町にある屋内温水プール兼総合スポーツ施設で、25m×8コースなどのプールに加え温浴、トレーニング室、スタジオ、キッズスペースなど多機能な設備を備えています。一般利用と学校利用との動線を分けたゾーニング計画により、双方の安全性や利便性に配慮し、両者にとってわかりやすい空間構成を実現しています。住民の健康増進拠点となっています。



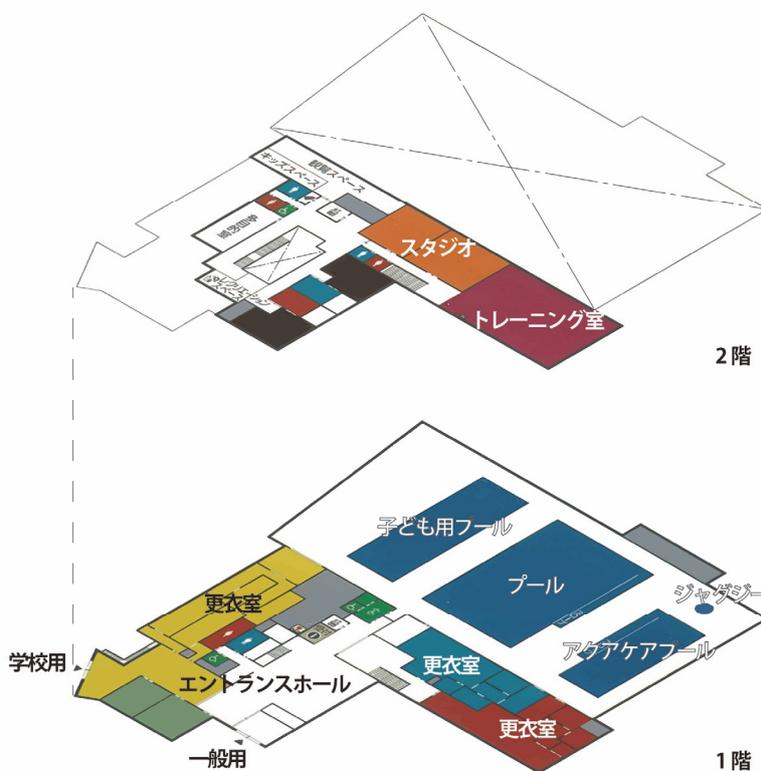
室内プール写真
(出典：CCNC プールたけとよ HP)

【基本情報】

- ・竣工年：2022年
- ・所在地：愛知県知多郡
- ・延床面積：5,554㎡
- ・階数：地上2階 地下1階
- ・構造：S/RC

【整備内容】

- ・メインプール
(25m×8コース、水深1.15m)
- ・子ども用プール
(水深0～1.0m、全面可動床)
- ・アクアケアプール(水深1.05m、流水装置)



【フロアマップ (関連書籍より独自に作成)】

武蔵野市営プール更新に関する基本計画

令和8年2月

武蔵野市教育委員会

担当課:教育部生涯学習スポーツ課